

# 東京陵水

賀 正

平成23年 元旦  
陵水会東京支部役員一同

平成二十二年総会  
二百二十七名が精養軒大会場を埋める  
在京陵水人の意気込みここに結集



## 目次

- |     |                 |
|-----|-----------------|
| 1面  | 22年度総会・23年度総会概要 |
| 2面  | 支部長年頭所感         |
| 3面  | 新人の感想・ヨット部エール   |
| 4面  | 紙上座談会           |
| 8面  | 佐和学長講演要旨        |
| 13面 | 「こんにちは」         |
| 17面 | 随想（黒沢・田中両氏）     |
| 20面 | 有田会・東京五陵会       |
| 22面 | 秋季役員幹事会         |
| 23面 | 彦根コンフィデンス       |
| 24面 | 年会費納入者          |
| 25面 |                 |



アトラクション「抽選会」



当番幹事22回生挨拶

## 平成二十三年支部総会の概要

堀内 裕（大23）

開催日時・平成二十三年七月九日（土）午後五時

14。

会場・上野精養軒（台東区上野公園四一五八）・料理が美味しいとの好評を受け、前回と同じ会場といたしました。

記念講演 『高まる中国リスクと日系企業の中国戦略』（現地の経営を通じて）

講師・羽渕展世氏（マブチモーター株式会社専務取締役（大

ター株式会社専務取締役（大

今回は皆様の関心が高い中国問題について、その第一人者であられる羽渕氏にご多忙の中、記念講演を引き受けていただきました。同氏はアジアを中心に約四十年に亘る豊富な海外駐在経験と大活躍されています。きつと皆様にご満足いただける講演になるものと確信しております。

あらためて、四月早々に総会のご案内状（出欠の返信葉書同封）をお届けする予定でございます。ぜひ、会社関係、クラブ、ゼミ等を通じ、昔の仲間と連絡を取り合ってください。一人でも多くの会員の皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。

## 幹事一同挨拶

今回は昭和五十年卒の陵水第23回の左記一同が担当しますの  
で宜しくお願いします。

堀内裕、野村勝良、中岡浩三、近藤修、大矢武史、青木市次郎、深谷靖純、堀江慎一、鯖江典之、関谷道昭、玉井達也、玉置辰司、棚橋稔、若林寛（以上十四名）

既に昨年十一月十七日、同期十二名が新宿に集まり、おおまかな役割分担を決定する等、漸次準備に取り掛かっております。参加者も年々増加し、会員の交流の輪がますます拡がって来ておりますが、今年も昨年同様、幅広い会員の皆様が参加いただける土曜日の設営といたしました。また席次についても、同期、部活、ゼミ等の要素を加味しながら、さらに懇親の輪が広がるよう工夫してまいりたいと思います。

# 年頭所感

陵水会東京支部長

西坂 徹雄

新年明けましておめでとうございませう。平素から陵水会東京支部に対しご理解とご支援を頂き心より感謝しております。

私は過去三年半、多数の東京陵水の先輩、同世代そして後輩の方々とお会いして来ました。皆さん優秀で、勤勉で、協力的でありまして、努力家です。こんな皆さんのおかげでここ数年、東京陵水会の活動も活発になっております。

考えて見ますと、我々の多くは程度の差こそあれ、日本の高度成長の恩恵を受けた世代ではないでしょうか。大学を卒業して就職し、結婚し、家を持ち、子育てをし、頑張つて働き定年を迎えるというサイクルを無事に通り抜けて来ました。

一方、昨年十一月末の日経新聞に北大の山口二郎教授が「団塊の世代は『食い逃げ』するな」「若者の社会改革、寄付で助けよ」と主張されています。日本の高度成長を享受した最後の世代の団塊の人達が退職後、私生活に埋没することなく、若い世代を

助けるアクションを起こし、危機状況にある日本の社会変革に貢献してほしいというものです。

東京陵水会としても、団塊の世代に限らず、その上の世代も、そして現役の人達も入れて、大学や社会への貢献として何が出来たかを考えたものです。

なお陵水会は最近学業優秀ながらも経済的に困つておられる、滋賀大生への奨学金制度を始めました。更に、陵水協力講座『リーダーシップ論』や、OBとしての就職講演会など現役学生向きの活動をやっております。新年もこれからの大学向け活動への東京陵水の皆様の参加を期待しております。

また東京陵水会としては、会員諸氏の親睦と健康の為に、有志のご尽力のもと、毎月の散歩会、年四回のゴルフ会、囲碁会やグルメ会を開催しております。来る七月九日（土）の上野精養軒での総会と併せ、これらの会にもより多くの方々の参加をお待ちしております。

新年も東京陵水の皆様方が益々ご健康で、例年にも増して「外に出られる年」、「アクションを起こす年」にして頂ければと願っております



「ヨット部」エールを高らかに



新入会員の皆さん



二十三年度総会幹事挨拶

|                  |  |  |  |                     |  |  |  |
|------------------|--|--|--|---------------------|--|--|--|
| 東京支部平成二十一年度収支報告  |  |  |  | 役員会費収入 四六〇、〇〇〇      |  |  |  |
| ○財産目録(単位円・以下同じ)  |  |  |  | 広告収入 三九〇、〇〇〇        |  |  |  |
| 現金               |  |  |  | 本部活動助成金収入           |  |  |  |
| 普通預金 三三四、六八二     |  |  |  | 一、二〇、九〇〇            |  |  |  |
| 郵便貯金 一、〇四一、〇四二   |  |  |  | その他 一五五、二二三         |  |  |  |
| 定期預金 一、〇六〇、〇〇〇   |  |  |  | 前年度繰越金 一〇七、八二四      |  |  |  |
| 合 計 二、四四〇、九四八    |  |  |  |                     |  |  |  |
| ○貸借対照表           |  |  |  | 東京支部平成二十二年収支予算書     |  |  |  |
| 【借方】             |  |  |  | 【支出の部】              |  |  |  |
| 現金・預金 一、三八〇、九四八  |  |  |  | 計 五、〇八〇、九四八         |  |  |  |
| 基本金引当預金          |  |  |  | 総会費 二、二〇〇、〇〇〇       |  |  |  |
| 合 計 一、〇六〇、〇〇〇    |  |  |  | 運営費 五〇〇、〇〇〇         |  |  |  |
| 基本金 一、〇六〇、〇〇〇    |  |  |  | 印刷費 三五〇、〇〇〇         |  |  |  |
| 次年度繰越金 一、三八〇、九四八 |  |  |  | 通信費 四〇〇、〇〇〇         |  |  |  |
| 繰越金 六九六、九四八      |  |  |  | その他 三七五、〇〇〇         |  |  |  |
| 二二年度会費 六八四、〇〇〇   |  |  |  | 次年度繰越金 一、二五五、九四八    |  |  |  |
| 合 計 二、四四〇、九四八    |  |  |  | 【収入の部】              |  |  |  |
| ○収支計算書           |  |  |  | 計 五、〇八〇、九四八         |  |  |  |
| 【支出の部】           |  |  |  | 年会費収入 一、〇〇〇、〇〇〇     |  |  |  |
| 総会費 四、八三九、九三七    |  |  |  | 総会会費収入 一、七〇〇、〇〇〇    |  |  |  |
| 運営費 一、七九六、二九三    |  |  |  | 役員会会議時会議費収入 四五〇、〇〇〇 |  |  |  |
| 印刷費 五二一、〇四二      |  |  |  | 本部活動助成金収入 一二〇、〇〇〇   |  |  |  |
| 通信費 三五五、四二五      |  |  |  | その他 四三〇、〇〇〇         |  |  |  |
| その他 四一四、三二〇      |  |  |  | 前年度繰越金 一、三八〇、九四八    |  |  |  |
| 次年度繰越金 一、三八〇、九四八 |  |  |  |                     |  |  |  |
| 計 四、八三九、九三七      |  |  |  |                     |  |  |  |
| 【収入の部】           |  |  |  |                     |  |  |  |
| 年会費収入 四、八三九、九三七  |  |  |  |                     |  |  |  |
| 総会費収入 二、一七八、〇〇〇  |  |  |  |                     |  |  |  |
| 総会費収入 一、四二八、〇〇〇  |  |  |  |                     |  |  |  |

平成二十二年東京支部  
総会の詳細は「陵水会年報」  
(二十二年十月発行) 四〇ペ  
ージを参照されたい。

## ■22年総会出席新人の感想

○柳瀬 友歌（大58）

（株）日本政策金融公庫浦和支店勤務

この春滋賀大学を卒業し、就職で初めて独り東京に参りました。こちらに来て三カ月が経過し、職場や新生活に慣れてきたとはいえ、実家から出たことが無かった私にとってこちらの生活はまだ心細く不安いっぱいでした。そんな時、陵水会東京支部の方より支部総会へのご招待を戴き、一歩踏み出す為に、思い切って出席させて頂いたのです。今、私は支部総会に出席して本当に良かったと感じています。各界でご活躍されている先輩方に多くのお話をお聞きする事も出来ましたし、先輩方の姿を見て、私も先輩方に付いていけるように頑張っていこうと強く思うことが出来ました。また学生時代では出会えなかった同期とも顔を合わせ、始まったばかりの仕事についてお互いに語り合うこともでき、いい刺激になったと思います。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、心が晴れ渡るようにすっきりとし、自信がわいてきました。卒業後にこのように集える場があるというのは本当に幸せなことだと感じております。今回出席

させて頂き、得られるものは大変大きく、ご招待してくださった陵水会東京支部の方々に大変感謝しております。どうもありがとうございます。また来年もぜひ参加させて頂き、その時には、もう少し成長した姿で先輩方と様々なお話が出来たらと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○藤原 悠（大58）

東京国税局勤務

今回は家族の薦めで参加させて頂きました。私は二つの大学を卒業しておりますが、正直こういうOB会のようなものは積極的に参加するタイプではありません。しかし、四月から社会人になり、六月末から現在働く職場の実務に出され、丁度新生活に慣れようと模索している最中でした。そんな状況の中、今回の会に参加したおかげで数多くの滋賀大卒業生から温かく迎えられる、激励を受ける事が出来、精神的にも癒されました。同じ職場内ではマイナスのネタを言うことも難しいので、今回のような今までは違ったコミニティで軽く愚痴を言い合ったり、貴重なアドバイス貰ったり出来るのもよい経験でした。これから同じ大学の卒業生の一人

として、学校に学んだことを活かせるような人生にしたいと思います。

○尾藤 弘喜（大58）

（株）前川製作所勤務

初めて陵水会の総会、懇親会に参加させて頂きました。卒業してまだ三カ月そこそこで、まだまだ学生の気持ちも残っていますが、こうした陵水会の集まりに来てみると、やっぱりもう学生ではないんだと改めて気づくことになりました。先輩の皆様にとりましては、学生時代を思い出す楽しい時間となったかもしれません。私にとっては逆にたくさんの方と会う機会は初めてだったので、総会が始まる前どころか、家の最寄り駅からとにかく緊張し放しでした。ただ本当に皆様が優しく迎えてくださったおかげで、楽しい時間を過ごす事が出来ました。また彦根から遠く離れた場所なのに、これほどの組織があることがわかり、頼もしい限りです。まだまだ社会経験の少ない新人ではありますが、先輩の皆様を手本として頑張っていきたいと思います。これからも皆様にお世話になることあると思います。機会がありましたらどうぞよろしく願います。

## 受け継がれて四十五年、ヨット部エール

滋野 輝彦（大17）

昭和四十年八月の全日本ヨット選手権大会に二年連続の出場が決まり、全国制覇へ向け意気盛んでした。前年は六年ぶりの出場ながら全国四位ともう一歩手が届くところまで来ておりました。

全国大会では恒例のレセプションが開かれて自校のアピールで大いに盛り上がります。前年驚いたのは、全国の有名校はすべてユニホームを揃え、洗練された特徴のあるアピールで貫録を見せつけておりました。

わが校は準備もなく、定期戦のやり方程度で残念ながら伍することができなかった次第です。全国制覇を目指すわが校としては、今年はレセプションでも大きくアピールし、強豪として存在感が必要です。当時の加藤博善善主将（大14）より指示が出され、一回生で最も声の大きかった私にエール作りと、エールを任せられました。大阪二色浜での開催まで、十日から二週間程度しかありません。

ユニホームは白いシャツと緑のネクタイで格好をつけること

になりましたが、エールと歌をどうするか。幸い歌はヨット部としてピタリ「彦根高等学校商業学校校歌」を拝借し、一番をそのまま、二番を三番と合わせて時代に合うように作り変えて」を取り込みました。

合宿時に、二回生と一回生の中で文学青年と称する部員が四、五名車座になりエールの詩作りが始まりました。皆さんから提案が百出しましたが、彦根の情景が目には浮かぶように琵琶湖、彦根城、ヨットを入れ、我々の意気込みを示す内容にしました。また出来るだけ解り易い言葉で、覚え易いこともポイントの一つでした。エールの振り付けはバンカラではなく単純でシャープな形にいたしました。

このようにして二色浜のレセプションの舞台に立ち、今度はの存在感を見せ付けました。この年は全員一丸となり、全国制覇はなりませんでしたが、準備優勝を成し遂げました。その後のヨット部発展の大きなエポックとなりました。

平成十五年に陵水歌集がCD付きで刊行されました（エール本文が同歌集六十一ページに掲載

載されています。これは吉田芳和先輩（大1回・平成十九年四月逝去）が消えゆく歌を残す為、多大のご尽力をされ完成されました。この中にヨット部のエールも入れて頂く榮譽に浴しました。私の勤務地の名古屋に行く度か訪ねていただき、エールを収録しCDに入れて頂いたものです。ありがたく感謝しております。

また金乃台CCでの陵水ゴルフ会の余興に、エールをやれと指名を戴くこともあります。諸先輩がエールの中に琵琶湖畔を思い出し青春のご自分と重ね合わせて頂いているように思います。

現役の学生の人達の間に、幾年にも亘る就職氷河期のため、運動部を避ける傾向があります。ヨット部も例外ではありません。しかし海のスポーツが好きな人船が好きな人は沢山いるはずで

す。まず原点から見直し、集まれる工夫はないのでしょうか。昨年新しい艇庫も完成しました。時代に即した姿が求められているような気がします。その中に新しい伝統が生まれこのエールも形を変えながら受け継いでもらえればと期待しております。

二十二年度総会を大成功に導いた幹事役「二十二回卒の皆様」へ日頃の所感をベースに紙上座談会を開かせていただいた。大

学二十二回卒の皆様は、昭和四十五年入学、同四十九年三月の卒業で、所謂「団塊の世代」の直後にあたる。今日職場定年の時期を迎えようとされている。そこで今日までを振り返り、第二の人生の出発にそなえて、貴重なお話をお願いすることにしました。

ご参加は小林忠志氏、早野幸雄氏、山脇一泰氏、孝内範生氏、

### 紙上座談会

## 「総会年次幹事を機に集まりました」

川分啓史氏、長井和男氏、山代真佐行氏の七名の皆さんです。司会を「東京陵水」スタッフが務めました。

司会「大学二十二回生の皆様に

は昨年七月開催の本年度陵水会総会に担当幹事として尽力され御苦労さまでした。二二七名と言う東京支部総会としては未曾有の参加者を集められたのは、幹事皆様のご努力の成果だと、お喜び申し上げます。

幹事の皆様はこの総会を成功

させるために、久しぶりで同期参集と言う機会を持たれました。そこで幹事の皆様の所感に

より、「紙上座談会」として特集記事の企画をたてました。お

差支えのあるような話題にも触れさせていただきますが、宜しく

席者がもう少し多ければと思ったことで、首都圏在住者が三十四人、ハガキで連絡の取れたのが十七人、当日の出席者が八人でした。出席者名簿の作成、年会費徴収の消し込み、アトラクションの準備も順調でした。総会の開催時刻に、陵水紙と連絡

がきの担当が別れていて、チェック漏れが出てしまったのは失敗でした。レストラン側と当番幹事との連絡の一貫性を徹底する事も大事です。会員への開催通知の送付は、一月、五月と二回実施したが、出席者の七割

が前年出席者であり、開催三か月前一回で良いと思いました。当日のオペレーションについて思いついたままにいいですと、当日申し込み者への予備卓や食事配分対応、遅れてくる人が意外に多かったこと、待合室のないこと、一つのブースに集中し受付が忙しかったこと、急遽名札の作成など、遅刻者への対応がつかかったことです。配布資料の準備などは前日までに済ませておくべきだったと反省

もしました。」

ただ残念だったのは、同期の出

# 高木税務会計事務所

高木早苗（経専第24回卒業）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-18-10

TEL 03 - 5393 - 3986

山代「実際には数時間の短い間とはいえ、本当にしつかり出来るのか大いに不安でした。やはり準備を重ねる事が重要で、私たちも準備を重ねていくたびにイメージが固まってきました。当日はお土産や景品のチェックをしましたが、かなりの人海戦術が必要だと思いました。」

早野「個人的には総会当日の運営を中心に担当しました。東京支部の総会は初めての経験ですが、会員数が多く配布資料の準備、配布作業に関わる方々のご苦労は大変なものがあるとの第一印象です。支部役員、幹事、担当年次の十分な意見交換、意思疎通があつてこそと思ひました。」

小林「二十二年の三月末までは京都で単身赴任をしていましたので総会の事前準備には参加する事が出来ませんでした。当日は受付を担当。前もつていろいろ準備されていた同期幹事諸兄には申し訳なく思ひました」

山脇「出席の皆さんから総会終了後お帰りの際に感謝の言葉をかけていただいたことなどで、多くの特に先輩の皆様が総会を楽しみにされていることを痛感しました。個人的には年次当番の制度で東京にいる同期と顔を

企画、経理、管理、人事総務等、事務部門の総括をしています。」

山代「丸紅食料の社長をやっています。」

山脇「私は住友生命からいずみビルクリエイトというビルメンテナンズ業の会社到现在出向し、管理部門を担当しています。」

長井「会社再建、事業再生を専門にコンサルティングに従事、再建会社への投融資もやっています。」

る業務を十年間経験しました。昭和三十九年に東京に転勤し、以後十四年間不動産投資・運用に携わりました。その後関連事業部門を経験し、平成十四年以降は不動産賃貸業のいずみコーポレーション、ビルメンテナンズ業のファーストファシリティーズ・ウエスト、同業のいずみビルクリエイトの順に出向し現在に至っています。最近の生命保険のことについては一般の人程度の知識しかありませんが、長期間不動産関係の業務に携わってきたため、不動産の売買、テナント募集管理等については一通りの実践的知識を身につける事が出来ましたし、弁護士、税理士、司法書士、不動産鑑定士等の専門家との人脈も出来ました。また、住友生命で仕事の進め方についての基本を身につけていたため、他の会社に出向しても戸惑いはありませんでした。」

川分「二十二年二月末に会社を退職し、現在失業保険を受給している身です。」

小林「二十二年四月から社員

の業務管理をしており、全国の営業所を廻り全社員とメンタルケアとはどういうものかという意味で面談をしています。」

孝内「主に建設鋼材を扱っている鉄鋼商社、伊藤忠丸紅テクノスチールに勤務しております。」

——ご卒業以来現在までのお勤

め先での生活を差し支えなければお話し下さい。そのなかの経験で得られたものとはどのようなことでしょうか。

山脇「昭和四十九年に住友生命に入社し、若い頃は二年に一回くらいのペースで転勤し、本社や支社で保険の販売促進に関す

務しています。何度も転勤しましたが、その中には決して望んだことでないこともありましたが、以後十四年間不動産投資・運用に携わりました。その後関連事業部門を経験し、平成十四年以降は不動産賃貸業のいずみコーポレーション、ビルメンテナンズ業のファーストファシリティーズ・ウエスト、同業のいずみビルクリエイトの順に出向し現在に至っています。最近の生命保険のことについては一般の人程度の知識しかありませんが、長期間不動産関係の業務に携わってきたため、不動産の売買、テナント募集管理等については一通りの実践的知識を身につける事が出来ましたし、弁護士、税理士、司法書士、不動産鑑定士等の専門家との人脈も出来ました。また、住友生命で仕事の進め方についての基本を身につけていたため、他の会社に出向しても戸惑いはありませんでした。」

山代「昭和四十九年三月に卒業

後、四月に丸紅に入社。主に食料部門に所属し、コーヒーの輸入を約十八年ほど経験しました。その間ブラジル、イギリスに駐在しました。その後一年間ダイエーへ出向の後、平成十八年四月から現在の丸紅食料に勤めた。組織は“人”だと実感しま

した。

**長井**「昭和四十九年から会計士補時代に主に会社更生法の財務調査に従事しました。昭和五十三年からは日本生産性本部経営コンサルタントとして、主に中小企業の経営改善指導に従事しました。平成四年にきて、会社再建、事業再生を専門とする経営再建コンサルタント協同組合を設立しました。一貫して倒産畑を歩いてきたおかげで、専門性は高まり、ニッチマーケットではありますがこれまでやってこれました。」

**早野**「特徴になるかと思いますが経理・管理部門という特定分野の仕事が長いこと、それに入社以来二十一年三月まで一度も転勤をせずに勤務したことでしょう。二十一年四月から東京にある部門も担当する事になり、東京に一月のうち半分くらい居る事になりました。最近では人事管理上、ローテーション制度として各部門を異動させるというやり方をとりますが、必ずしも画一的なやり方が良いのではないということ、自身の例と比べながら考えるようにしています。」

—— 先の総会で西坂支部長が、

会員のほとんどがクラブ活動をし、ゼミで厳しく学んだことが社会に入ってから彦根出身の経済人を育てたとの挨拶がありました。彦根で学んだこと、クラブ、ゼミで得られたことで、社会生活に入ってから役に立ったのはどんなことですか。心の面、技量の面で仕事の上でどのような生かされましたか。当時の思い出を交えてどうぞ。

**長井**「岡本ゼミでした。会計士の道に進むきっかけになりました。」

**早野**「クラブでは詩吟部に所属し、ゼミは小林健吾先生の「管理会計」でした。就職入社後の仕事を経理・管理部門ということになりましたが、ゼミを含め専攻した学業のおかげで、入社後の仕事にそんなに苦勞することもなく入ることができたのかなと思っています。」

クラブの詩吟部はいまではなくなってしまうと残念なのですが、大先輩を始め一部の方々と今も交流が来ていることは、ともすれば会社、仕事を通じた人のつながりになってしまいうことが多くないか、大変有益であると感じています。」

**山代**「サッカー部に所属していました。サッカー部は歴史の浅

い部で、確か私が入学した時は創部三年目ぐらいでした。教育学部のサッカー部は長い歴史があり、滋和戦・近畿国体の代表戦をやるのですが、二回生までは全く歯が立ちませんでした。が、三回生の時に主将となり、初めて勝つことが出来ました。また、東海リーグに所属しており、同じく三回生の時三部リーグで優勝し、二部リーグへの昇格を果たしました。現在は活発な部活動となっているのですが、その基礎を築けたのではないかと自負しています。何事も初めは大変で全く小さなものですが、将来の夢を持って事に当たることの大切さを実感しました。」

**川分**「あまり勉強をしなかったのですが、ゼミの印象はあまりありません。一方旅行が好きだったので、クラブはワンダーフォーゲルに入りましたが、先輩にいろいろ教えていただきました。現在も年一回新年会で顔を合わせています。」

**山脇**「クラブはグリーンクラブでしたが、合唱は組織プレーです。一人ひとりがレベルアップしていく中で全体の調和やレベルアップが出来るように思います。他流試合などしたことのないク

ラブでしたが、三回生の時、関西合唱コンクール大学の部A、これは少人数の部ですが、これに初めて出場し、第一位と発表された時の驚きと喜びは忘れられない思い出となっています。」

**小林**「大学では勉学よりもクラブ、ゼミを通して人間形成の基礎が出来たと、今になって思っています。その基礎があったおかげで社会に入ってから成長して行けたのではないかと考えています。社会人になってからのも年一回以上は同窓生との集まりがあり、相談に乗ったり、乗って貰ったりしてきたから無事勤めあげられたと思っています。」

**孝内**「クラブはバドミントンでした。大学入学当時は初心者であつたが、四年間ダブルスの同僚のペアに恵まれ、予想以上のレベルまで上達出来たという自信を得ました。現在も月に二回程度やっています。忍耐力と友人が得られ、目標に向かって負けない気持ちを育てたこと、入社してから業務に対する姿勢に粘り強さをもったことなど、役立っています。ゼミは仙田ゼミに所属しましたが、入って間もなく仙田先生がイギリス留学となりゼミでの活動はほとんどな

く、ゼミの仲間との交流はクラブとは比較になりません。」

—— 不躰で申し訳ありません。間もなくご定年をお迎えになることと拝察しますが、定年後の御計画などお訊ねします。

**小林**「私は二浪して滋賀大学に入ったので、二十二年の三月末に京都本社で定年退職しました。四月から東京営業所において、シニア社員として働いています。これは京セラグループでの呼称で、世間という高年齢者継続雇用制度と同じものです。仕事から解放されたら国内海外の世界遺産を含めた世界の名所旧跡を回りたいと考えています。」

**孝内**「特に具体的に考えているわけではありませんが、世界遺産に興味を持っており、許される範囲で、妻と一緒に世界遺産を見てみたいと思っています。」

**長井**「クライアントから声がかかる限り、現役を続けていきます。」

**早野**「先輩の皆さんから、いろいろお話を聞くたびに何かしたいことを考えなければと思っているのですが、なかなか定まらないのが現状です。」

**山代**「六十三歳ぐらいまで、あ

と四年後になりますが、働こうかと思っています。その後についてはノープランです。それまでには趣味を見つけます。」

川分「DCプランナーの資格を取るという理由で、会社を五十八歳でやめました。現在失業中ですが、六十歳から年金をもらえるので、しばらくゆつくりとしたいと思います。その後はフアイナンシャル・プランナーとして活動するかもしれません。」  
山脇「定年後も働きたいと思っています。今までは生活責任を負っていた立場でしたが、これからは自分の健康のために働けたら良いと考えています。もちろん、今までの経験を活かす事の出来るのであればベストですけれど。また、できれば会社以外のインフォーマルなグループ活動にも関わっていきたいと思っています。」

——今日の我が国は政治経済文化等々あらゆる面で、閉塞状態にあり問題山積です。ご関心をお持ちの政治経済情勢に焦点をあわせてご意見、ご感想をお聞かせください。また社会一般や陵水会会員後輩への励ましになるご意見を戴きたいと思います。  
孝内「先送り事案が多すぎると

思います。早急に方向性を定め、解決に向けて動かなければいけないことだらけです。その場合、ある程度の国民の犠牲は覚悟すべきだと考えます。中でも国の借金の増加は特に気になります。一つ一つ解決していかないと問題事項はどんどん溜まってゆきます。お金の使い方が稚拙であり、その経済効果の見通しが甘すぎると思います。」  
長井「経済力や政治力の国力の低下がすべてを内向きに行っています。成長が不可欠です。社会一般に対しても、陵水会会員の皆様に対しても、少しでもお役に立ちたいと考えています。」  
早野「国が存続していくために必要なのは『食料』『エネルギー』『安全保障』だと自分では思っています。日本では『安全保障』に関して総じて意識が希薄ではないかと思っています。仕事から防衛関係の会合などにも出ますが、もっと広く国民レベルで日本の安全保障についての議論がなされるべきだと思います。」

山代「我が国のほとんどが会社勤めの給与所得者です。この国を活性化するためには、給与所得の増大が第一です。法人税減税もその分のいくばくかを給与のアップにつなげるべきです。ある基準以上の労働分配をした会社には減税を適用するなども考えていい。また特に悲観的なことをマスコミではニュースとして取り上げすぎです。もっと明るい側面もニュースに取り上げるべきです。農業が低迷しているのは、給与所得でないから、収入が安定しない、そのためには法人の農業参入を自由化すべきです。農業そのものの魅力如何もあるが、現在の規制では企業のある意意思決定が出来ません。」  
山脇「社会人生活が長くなると、歳とともに政治経済の動きが自分の生活や職業に対して、直接的、間接的にどう影響を与えるかについて考えるようになってきたように思います。一方で、若い世代の中には政治経済にも関心が薄く、利己的な生活をされている方が多くなってきたような気がします。世の中の様々な問題について先の展望が開けないことが大きな原因なのでしょうが、このままでは精神的なものを含めて国全体の活力が無くなっているのではないかと危惧しています。」

川分「民主党政権に変わっていろいろありましたが、この変化自体は評価しています。日本においていろいろな価値観を持った人が、気軽に政治に参加できる仕組みを作るべきだと思います。」  
——終わりに、陵水会の全般・東京支部等への御意見をお願いします。  
川分「勤めていた会社にも陵水会がありました。その会社の中の陵水会員の仲間同士が交流できるようなヒント、企画があればと願います。」  
山脇「陵水会は、会社や役職を離れた組織であり、同じ彦根の地で青春時代を過ごした仲間つながりで出来ていると思います。歴史の長い同窓会だけに支部長始め世話役の方の力に頼るところが大きいと思いますが、一人ひとり自分の出来る事、自分の知っている先輩や同期、後輩に陵水会への参加を呼び掛けていくことが大切だと思います。」  
早野「どうしても陵水会支部行事への参加が高年齢層に偏りがちなのですが、現役世代の中には陵水会、支部の活動を知らない人も多くおられると思います。このような方々への広報活

# 株式会社トッパンNEC サーキットソリューションズ

相談役 田川 行雄 (大9回卒)

〒108-8536 東京都港区芝浦3-19-26 トッパン芝浦ビル ☎03-5419-9700

動と言う意味でも、「東京陵水」紙の発行は意味のあるものと感じています。」

山代「現在の総会当番の年次幹事制度は大変良く出来ていると思います。今後も皆でサポートしてこの制度を維持して行きましよう。」

孝内「定年前の年代に総会年次幹事にしてもらい、以降の親睦、連携を深めさせるというお考えについては賛成です。しかしながら、私自身を含めて、卒業後その年代までの三十五年間の陵水会への親近感は薄く、従って会への出席者も少ない実態を考えますと、例えば卒業後十年目くらいの年代を幹事補佐にするとか、若い人の関心を惹く何らかの対策が必要だと思えます。」

長井「陵水会の幹部、関係者の方々には感謝しております。」

司会「多方面から忌憚のないお話を有難うございました。立ち入った事までお話をしていただき恐縮に存じます。今回の総会年次幹事の集まりをきっかけに一層ご同期の輪を広げられ、第二の人生を陵水の友人とともに豊かに送られますことをお祈りしております。ありがとうございます。」

## 特別講演要旨

# 「グリーン産業革命」

## 人類の生存を脅かす一〇の危機克服の条件

滋賀大学学長 佐和 隆光 教授

ご紹介いただきました佐和でございます。

本日はですね、新しい学長に就任しての抱負等々をお話ししたかったのですが、先週の土曜日、日曜日に、皆様方もよくご存じの第四十五回目の滋賀大学と和歌山大学の、滋和戦というのがございまして、私は開会式で挨拶をしました。十五勝九敗四引き分けということで七連勝と七年連続で和歌山大学に勝ったということをご報告申し上げます。

本日のテーマはグリーン産業革命ということで人類の生存を脅かす一〇の危機克服の条件というテーマでお話しさせて頂きます。

先ずこの一〇の危機の一番目は、二〇〇一年の三月にアメリカでジョージブッシュ・ジュニア大統領になって以来、とにかく世界全体がおかしくなったわけですね。そして、その大統領

に就任した年の九月十一日、九・一一に同時多発テロが勃発したのです。ということではアメリカはその報復のために、何故、イギリスと一緒に有志連合としてアフガニスタンに侵攻したのかその辺りは未だに謎でございしますが、アフガニスタンに



侵攻した。それから今度は〇三年三月には、イラクが大量破壊兵器を持っているに違いないというこの有連合がイラクに侵攻したイラク戦争が起きました。そしてイラク戦争もアフガニスタン紛争も今だに、泥沼化した

状態が続いております。

そして、二番目は気候変動です。クライメイトチェンジなんです。地球温暖化というふうな言い換えても宜しいわけですが、その結果で、大変な被害が頻発しているということです。主だったものをここに挙げてお

ト・チェンジという言葉は何故か日本では気候変動というふうな誤訳したんですね。気候が変動することは当たり前じゃないかと。気候が変わってしまうことですね。中国語では気候変化と言います。

りますが、例えば、ロシアの森林火災の頻発ですね。なんで関係があるのかと思われるかもしれませんが、気温が上昇しますとね、ロシアの地面は、シベリア辺りは凍土ですね。凍っているとメタンが方々で出て来るわけですね。森林が風で木と木が摩擦すれば、当然火が出ますね。どうかと思われたかもしれませんが、それがメタンに引火して山火事が頻発しているのです。それから、二〇〇六年のオーストリアの早魃で何と、小麦の収量が六〇％減るといような被害も出て来るのです。二〇〇八年にはミャンマーをサイクロンが襲って一〇万人以上が死亡しました。こういうことが、クライメイト・チェンジです。チェンジという言葉は「変化」でしょう、もともと。で、「変動」といえばバリエーションですよ。だけど、クライメー

で、それから三つ目の危機というのは原油価格が高騰していること。第一次オイルショックの後で、その頃石油の値段が高くなって大変だと言っていました、高々、四〇ドルだったわけですね、一バレル。一五九リットルですよ。それが、その後ずっと平穏無事に推移していたのですが、二〇〇八年ごろになって急激に上がって、安いころと比べると八倍七倍高になった。今度は、所謂リーマンショックです。これから景気が悪くなると、石油に対する需要が減るに違いないということで今度はガクーンと七〇パーセントも下落して、八〇年の一四〇ドルから四〇ドルまで下がったわけですね。しかし、やっぱり、中国やインドのモータリゼーションが着実に凄まじい勢いで進んでいますから結局、今は八〇ドル前後で推移しているということですね。今後石油の値段は二〇三〇

年頃には一バレルが二〇〇ドルぐらいにまで上がつてゐるだらう。問題はそうになると自動車や、

船舶は何で走るかということだ。今例えば人造ゴムが無くなれば自動車のタイヤをどうするのか、プラスチックが全く無くなればどうしますか？ これでポリエチレン、ああいうもの全て無くなれば、無くても良いという考え方も勿論あつていい訳ですが、確かに困るということだ、非常に高価な石油というのは、ノーブルユース石油化学に先ず、真つ先に使われるだらう。自動車は、去年三菱自動車が、アイミーブという電気自動車を出しましたよね。アイミーブというのは十二キロワットの容量のある電池を使っているのですよ。

現在、電池の価格というのは、一個二〇万円だそうですね。そうすると四八〇万位で売っているのですが、実は何と電池だけで、三二〇万円らしいですね。そういうことで非常に目下のところ高いわけですが、何と燃費効率の良さが凄くて一キロリッターで、皆さん方が乗つてらっしゃる車で概ね一〇キロ走ればまあまあ燃費効率が良い車とい

うことになりですね。ところが、電気自動車は一キロワットアワーで一〇キロ走る。そうすると

夜間充電しておけば、七円で一〇キロ走る。ガソリンの場合は一二〇—一三〇円で一〇キロ走る。随分そういう意味では安くつく、日産自動車のカルロスゴーンなんかに言わせると二〇三〇年頃にはガソリンなんかで走っている自動車は一台もなくなるだらう。問題はですね、飛行機はジェット燃料です、石油製品を使つて飛んでるわけですね。ジェット燃料に代わるもので飛ぶことが出来るのか、短距離なら良いけどですね。太平洋を安全に横断するなんてことは出来ない。水素を燃料にするという人もいるけれどやっぱり危なくてしょうがない。それから船舶の場合も内航船の場合

はバイオジーゼル廻りで間に合うわけですが、貨物船で外航貨物船の場合、やっぱり重油でないと重い荷物を積んで海を渡つてくることは出来ないんじゃないかということですね、結果的にこの二〇三〇年頃になると飛行機の運賃とか船舶の輸送料はものすごく高くなる。ニューヨークと東京の往復というのは、恐らく今の何万円という数字で

言いますと、恐らく二五〇万円位になつてゐるだらうと予測しています。

それから、様々な穀類を輸入してますよね。船舶が高くなる、と運んでくるコストはものすごく高くなる。ということになると、やっぱり日本の農業の国際競争力は復活するということですね。今度は逆に日本の製造業は国内で自動車を作つて、或いは工作機械を作つて輸出している。しかし、今度は、そんなものを運ぶのに高くついてしまう、ということになる、と全て現地生産ということになる。製造業の労働力を輸出することになりますよね。つまり国内で製造業が雇用する人の数はぐつと減る。そうすると別の働き場所として、農業ということなる。だからこういう先を見越して、政府には是非とも農業を魅力的な産業に育て上げるといふことを今すぐ取り掛からなければならぬだろうと思つています。

四番目の危機というのは、太陽光、風力、バイオマス、小さな水力発電所など世界全体で推進されているわけですが、電力の送配電系統の安定化という問題ですね。矢張りその太陽で作

った電力とか、風力で作った電力は、電圧とかで、供給量そのものが不安定となつてきます。電力がそういう不安定さで大量に送配電系統に流れ込んでくると、それを安定化するための色々な送配電網に作り替える必要があるということですね。

それから食料の値段がどんどん上がつてゐる。この理由はさうおくとして、二〇〇七年頃には何と米なんですね。日本は米はほぼ自給して、一定程度は輸入することに義務づけられてゐるからタイ米なんかを輸入して、おカキの原料にしたりしているようにすけども、概ね我々が食べてゐるお米っていうのは全て国産ですよ。ですからコメの値段がこんなに高くなつた、ということとはピンと来ないですけれども、実はコメの輸出国だつたインドがコメの禁輸をした、ということだ、国際価格がこんなに上がったんです。二番目に上がつてゐるのは大豆なんですね。

二〇〇七年から八年の初めに掛けて価格が高騰したわけですがリーマンショックの後、ガクーンと下がつて、その後豊作が

幸いにも二〇〇八年九年と続いた結果としてこれは石油ほど値上がりしてゐない。ほぼ横ばい状態にある、と。

しかし六番目の危機は公衆衛生の旧態化ということではエイズとか豚インフルエンザ、鳥インフルエンザとかですね。野生の動物を宿主としていたウイルスが、例えば宿主となるエイズの場合ですとゴリラがどんどん減つて行く、数が、一番ぎょうさんゐるのは何かと言つたら一番多いのが人間ですね。人間に宿主を変えようと、鳥、鶏を経て人間に来るといふことで、こういう病気が恐らく今後一〇年二〇年の間に、今まで聞いたことのないような病気が出て来るだろうといふことです。

それから国際金融危機ですけれども、二〇〇八年にいわゆるサブプライムローン問題に端を発する国際金融問題が起きて、二〇〇八年九月にリーマンブラザーズという投資銀行が倒産しました。その結果、世界全体はどうなるかといふような感じになつてアメリカ、ヨーロッパでも銀行がほとんど国有化された。ところが日本ではバブルの悪夢がまだございますから「羹

に懲りて膾を吹く」とあんまりサブリプライムローン関連の証券に手を出していなかったのですね。みずほ銀行というのは一番たくさん買ってたみたいですけど、金融危機の方はまあ難を免れたわけです。

実は自動車経済にも深刻な影響が及んで、とくに象徴的なのが自動車産業なのです。自動車というのは経済にとってはものすごい商品なのです。つまり自動車をほとんど作ると、一台が一トン以上の重さがあるわけですね。鉄を始めとするありとあらゆる素材を使っているわけですよ。ですから自動車がほとんど売れば鉄鋼、板ガラス、非鉄金属、ゴム、化学、損害保険会社、それから所謂ショッピングセンターですね。そうした小売業まで影響を及ぼす波及効果があります。難しい言葉でいえば産業連関的な波及効果があるということです。

兎に角、自動車というのは凄い商品なんです。それがですね、今まで六年で買い替えていた人が、景気が悪くなってきたらもう一年伸ばそうかと。もう一年延ばしたからといって何の不快感もないわけですね。最近の自動車は良く出来ていますか

それから九番目の危機は、雇

用の問題ですね。GDPの成長率が下がっては大変だと言いますが、これは日本人だけなんです。成長率、下がったら大変だ大変だと、大騒ぎしているのは。それに政府が前の四半期のGDPの速報値がある日の午前中に発表するわけですね。そうすると、それが夕刊の一面のトップ、日本経済新聞紙だけではなくあらゆる新聞の一面トップを飾る。こんなのは日本だけなんです。むしろアメリカとかヨーロッパでは何が重要なかと言えば、失業率を出来るだけ減らすこと、雇用なんです。日本でも失業率が五%台ということは無かったです。高度成長期にはですね、絶対一%台でした。それからオイルショックの後、二%台でいつて、ずーと九五年位まで二%台で来て、その後三%を超えると、後は一



佐和学長著作の一部

用の問題ですね。GDPの成長率が下がっては大変だと言いますが、これは日本人だけなんです。成長率、下がったら大変だ大変だと、大騒ぎしているのは。それに政府が前の四半期のGDPの速報値がある日の午前中に発表するわけですね。そうすると、それが夕刊の一面のトップ、日本経済新聞紙だけではなくあらゆる新聞の一面

気に五%台まで上がったということ。一〇番目の危機は切りの良い数字で是非、覚えていて下さい。二〇五年度の人口は九千万人を割り込むのですよ、いま一億二千六百万人ぐらいいですよ。それが九千万になるということは四〇%位減るということですから。それから高齢化指数が四〇・五%なんです。つまり六十五歳以上の人が人口に占める割合が四〇・五%。僕はさっき名簿を見て、昭和四十二年大学卒の方が六十五歳で大学へ現役で入学されて、多分後期高齢者の一年生だと思ふのです。それで高齢化率をさっき計算したら五六・六%。そうすると医療や介護の費用が家計指数に占める割合がものすごく増えます。その結果、医療や介護というのは必要経費なのです。第二の税金みたいなものです。それで、老人ホームが大盛況になります。二十歳前後から六十五歳まで一生懸命に働いて、いささかのお金をためて、不動産も手に入れた。ところが、それを全部売り払ってですよ、その位売り払わないと本当に介護医療の充実した老人ホームには入れないわけですね。

## 東証マザーズ上場、ネット通販最大手 株式会社ストリーム

代表取締役社長 劉 海濤  
顧問 西坂 徹雄 (大9回卒)



<http://www.ec-current.com/>

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-15-2 新神田ビル7階

TEL:03-5256-7688

FAX:03-5256-7088



そして加えて年金は食費として毎月払わなくてはいけない、そうすると何のために働いているかという、老人ホームに入るために働いているという時代が現実になるわけですね。

現在七十五歳の方の平均余命は男性が十一年、女性が十五年なのですが、再生医療の進歩でそれぞれ五年延びると仮定しますと女性の場合は、九十五歳で亡くなる内の二〇年間は後期高齢者として暮らすわけです。そうしますと人生の二〇%前後を後期高齢者として生活しなければならぬ。その時のために一生懸命働いているのはなかなか変な社会ですよ。ですからこれも景気が明らかに悪くなります。ほかのものが買えなくなり、働き盛りの人も親の介護、親を老人ホームに入れるためにいささかのお金を出さなければいけない。

それで世界同時不況というもののに対する処方箋を二つあげておきます。

一つはグリーン・ニューデールの実践、省エネ家電、自動車、太陽光パネル、燃料電池なんかを普及せねばならない。これを見ると、まず最初の一九五

六年から一九七二年までは高度成長期なので、経済成長率は平均で九・一%です。だから十一%、十二%が当たり前の時代だったのです。これは正しく今の中国ですよ。その後オイルショックに襲われた年の翌年の一九七四年には戦後初めてのマイナス成長を経験したと。その後、元通りにはならなかったけども、何とか四%の平均成長をずっと続けることが出来た。そして一九九一年にバブル崩壊不況が始まって、バブル崩壊以降、今日まで一番端っこにあるのが、二〇〇八年と二〇〇九年はマイナス三・七、マイナス二・八ですが、押し並べて平均でしますと平均年率で成長率は何と〇・八%です。実質経済成長率は〇・八%、但し、この間ずっとデフレということで物価は下がっているのです。だから名目経済成長率はほとんど動いていないということなんです。

実際二〇〇八年度の年間GDP、名目GDPと一九九五年との名目GDPとは全く同じなんです。つまり、一九九五年から二〇〇八年まで名目経済成長はゼロと全く同じで全く成長していないのです。

そういう状況が続いているわけですね。初期の頃、つまりこの高度成長期が始まった頃には、三種の神器という言葉がありましたね。電気洗濯機と、電気冷蔵庫、白黒テレビを三種の神器と呼び、それらがあつという間にはほとんど一〇〇%近くまで普及しました。それから、電気掃除機も普及し、それらが普及し尽くしたあと運良く、幸いに現れたのが三つのCと言

ういうことかと言えば、日本で自動車を持つことのコストが非常に高いのです。それで自動車はほとんど飽和状態になった、保有税が普通の一五〇〇Cで三八五〇〇円ほどかかりますし車庫を借りなければならぬ。二年に一辺、車検をやらないかといけなく、まあそれやこれやで保有することに伴うコストが非常に高い。ということ

で、八十五%以上は増えない。最近では若者の自動車離れ現象が昔は大学生と言えれば必ず、ほとんど免許を取ってましたね。今は取らない、面倒くさい、何の若い人たちの口癖です。車なんて面倒くさい、止める所探すのも面倒くさい。それなら電車です。十分や、問題は九一年に不況に陥ってから今日に至るまで経済はほとんど成長してなかったわけですね。その間普及したものは何かといえば、パソコン、デジカメ、DVDプレーヤー。最近になって液晶、薄型テレビですね。そういうものが普及しましたが、薄型テレビを別にすれば全部デジタル製品なんです。たとえば、デジカメがいくら普及してもその他の産業にほとんど影響がないですよ。部品

ところで一九六五年の乗用車の普及率はわずか一〇%なんです。ほとんどよほどの金持しか、乗用車なんか持っていないか。一九七〇年ですと二〇%、七〇年です、そう昔じゃないですね。その後ほぼ一直線に増えて行つて一九九一年、バブル崩壊が始まった年に丁度八〇%になるんですね。そして、それ以降は乗用車は大体八〇%台を行ったり来たり、つまりど

ういうことかと言え、日本では自動車を持つことのコストが非常に高いのです。それで自動車はほとんど飽和状態になった、保有税が普通の一五〇〇Cで三八五〇〇円ほどかかりますし車庫を借りなければならぬ。二年に一辺、車検をやらないかといけなく、まあそれやこれやで保有することに伴うコストが非常に高い。ということ

で、八十五%以上は増えない。最近では若者の自動車離れ現象が昔は大学生と言えれば必ず、ほとんど免許を取ってましたね。今は取らない、面倒くさい、何の若い人たちの口癖です。車なんて面倒くさい、止める所探すのも面倒くさい。それなら電車です。十分や、問題は九一年に不況に陥ってから今日に至るまで経済はほとんど成長してなかったわけですね。その間普及したものは何かといえば、パソコン、デジカメ、DVDプレーヤー。最近になって液晶、薄型テレビですね。そういうものが普及しましたが、薄型テレビを別にすれば全部デジタル製品なんです。たとえば、デジカメがいくら普及してもその他の産業にほとんど影響がないですよ。部品

率三%、実質成長率二%とか言ってますけど、成長率三%を実現させるためにはエコ製品を普及させるしかないということ、これをグリーン・ニューデールと呼べばいいですね。

そのための施策を政府は真面目に実行することです。それから実は今回、日本経済を比較的に早く回復出来たのは中国特需のお陰なんですよ。中国は四兆元、六〇兆円の財政出動をやつて、そして内陸部に住む人達でテレビが欲しい、電気冷蔵庫が欲しいと思っている人がいっぱいいるわけですね、そうした人達に補助金を出すと、バンバン売れるのですね。それでも当然、日本製品に対する需要も多くなつて売れるということ、特に京都には村田製作所、京セラ、日本電産、とかいったような所謂部品メーカーが一杯ありますね。〇九年一月頃から景気が良くなっているのですね、中国から猛烈な需要が来るというように聞こえますね。これからはグリーン・ニューデールということですね。

でも政府が公共投資をやればそれでGDP、成長率がグリーンと上がるとは考えられない。みんな持つてゐるわけですよ。家に帰れば、丁度昭和四〇年に四〇年不況というのがあって、その時、大蔵大臣の田中角栄さんがヨッシャということ、戦後初めての国債を発行して公共事業にばらまいたのですよ。それで景気が一気に回復した。収入が増えた人は直ぐ電気屋さんに飛びこんだわけですね、景気があつた間に良くなった。ところが今はなんぼ公共事業やつても三ナンバーの高級車に乗つて工事現場に来ている人が多いわけですよ、結構。ですからそんな所で公共事業やつても効果がな

した分を日本の削減分にカウントできるという制度がありま

国や東南アジアの人はそれだけ収入が増えて、そして日本製のカラーテレビやそれぞれ諸々の製品を買ってくれるだろう、という事です。これからは新興国や発展途上国にもつと投資をしてそこで需要を喚起してブーメランのように日本にも帰ってくる、そういうふうな政策が必要ではないか、ということ。その本日はご静聴有難うございました。

## こんにちは

小梶 清司氏 (大18回)



今日は新しい東京支部幹事長にお話を伺いたしたく参りました。ご出身地は。

小梶 滋賀県八日市(現・東近江市)です。高校は彦根東で、

彦根で七年間過ごしたことになります。

### 学生時代

——ヨット部で活躍されたとか。

小梶 高校時代は通学に時間を取られクラブにも入れず、大分欲求不満が溜まつておりましたので、大学に入つたら是非スポーツをとほ思つておりました。中学時代は軟式テニスで県体に出たこともあるんですが、高校時代からやっている人にはもう敵わない。それに比べると、ヨットは当時、滋賀大の中では数少ない全国レベルにある運動部だと聞いておりましたし、しかも殆どの人が大学で初めての経験なので、スタートラインが皆同じだという点が魅力的でした。

——厳しかったんですね。

ね。現在も同じ光景かも知れませんが、入学前後になるとクラブの勧誘合戦が激しく、ヨットの場合は新人をいかに艇庫まで連れ込むかが勝負のポイントになっていました。私の場合は自分の意思で艇庫にノコノコ出向きました。一人で行つたものから、先輩達が、「あれ、変な新入生が来た!」と驚いている様子でした。早速試乗させてくれました。最初は先輩達の態度も非常に親切で行き届いてましたし、試乗した時の風の状態も良かったのでしよう。帰る頃には自分の腹は固まつていたと思います。勿論その後、先輩の態度が豹変したことは言わずもがなですけれど(笑)。

——その当時の部員数は。

小梶 二、四回生部員が二〇名足らずでした。そこへ二〇名を超える新人が大挙して入り、一気に大所帯になったのですが、その後合宿を重ねる毎に、人数は減つていき、最終的に同期は八名となってしまいました。それでも現在の部員の頭数を上回っているようですから、まさに今昔の感がします。

——厳しかったんですね。

小梶 そういうことでしょ。個人的には、初めての共同

生活が面白かったし、先輩も個性の強い人が多くて、知性派もいた。それなりの充足感はありましたね。夏のインカレまでは、上級生の顔も引きつってま

すし、合宿の炊事当番とか、監視艇から笛を吹いたりしている内に、すっかり湖の色に染まっ

ちやいました。気が付いたらもう抜けに抜け切れない一人前のヨットマンになってましたよ。

——競技にはいつ頃から出られたんですか。

**小梶** インカレが終わると鬱っ

とおしい四回生がいなくなりま

すので、そこで初めて新人にも

チャンスが巡ってきます。勿論

クルーと呼ばれる補助要員とし

てですが、二回生の後期位から

漸く舵も握らせてくれました。

レースの出場は日頃のパフォー

マンス次第、厳しい徒弟制度の

中で鍛えられました。(笑)

——当時は強かったんですか。

**小梶** 強かったですね。そもそ

も当時の琵琶湖勢のレベルは高くて、その中で切磋琢磨するわけですから当然腕は上がりま

す。昭和四〇年代から五〇年代

にかけては、インカレの予選突

破は当たり前、本大会でも年に

よっては準優勝、悪くても入賞

出来る位の力は十分持ってまし

た。お蔭で全国を転々としなが

ら他流試合も盛んでしたので、

八日市の田舎者が湘南の海に出

てこられるチャンスも度々あり

ました。

**ヨットが財産**

——ヨットでの想い出とか、財

産になったことは。

**小梶** 当時のヨット部には、全

国制覇という現実的な目標があ

りましたので、それに向かって

の組織の団結は強かったです

ね。それとOB組織がしっかり

していて、ある意味、今想うと

会社経営に近いものがありまし

た。レースが近付くと、東京や

大阪から色々な偉いさんが訓示

を垂れに來たり、差し入れを置

いて行ってくれたりと賑やかで

した。我々がそうした機会を捉

えて、社会を垣間見たり、色々

有用な話を聴けたりしたのは良

かったと思っています。私の場

合は、その後も人生の節目節目

でヨットには何かと世話になっ

て今日に至ってますから、謂わ

ば私の財産ですね。

——ゼミは。

**小梶** もともと理論経済の方に

興味がありましたので、当時売

出中の山崎ゼミに入って、一応

ケインズ経済を勉強したという

ことになります。先生は、ゼミ

を持たれて未だ三年目の助教授

でしたが、若いこともあって

我々との距離感も近く、先輩ゼ

ミ生にも結構勉強家がおられた

ので、ゼミ活動ではアカデミッ

クな雰囲気それなりに味わっ

た気がしています。

——就職は。

**小梶** 三、四回生の頃は、まさ

に「いざなぎ景気」と呼ばれた

好況の末期にあたったと記憶し

てます。毎年の実質成長率も一

〇%を超える水準でしたから、

就職環境は恵まれておりまし

た。今の学生さんには申し訳な

いですが、まあ選り好みさえし

なければどういかなるという時

代でした。特にあの頃は、学園

紛争が盛んでしたから、会社側

も運動部出身者には一定のフェ

イバーを与えていたかも知れま

せんね。

——そんな事情で、三回生の時は、

自分の将来についてまだ真剣で

はなかったというのが本当の所

ですが、漠然とは商社や金融関

係を考えていたように思いま

す。夏のインカレも終わり、四

回生から政権移譲を受けて暫く

経った頃だったと思います。谷

岩さん(大3、故人)から「就

職はどうするんだ」と問われ、

「まだ考えてません」と言っ

たら、「興銀を受けてみないか」

と強く勧められました。

——当時の興銀には先輩もおられ

なかったし、第一印象はとっ

き難いイメージでしたが、色々

話を聴いたり、調べたりしてい

く内に、高度成長期の輝かしい

歴史や、その人間集団に強い魅

力を感じました。またその頃興

銀が一つの転換期に差し掛かっ

ているということも知って、自

分にも何か活躍の場があるので

はないかと思ひ、段々チャレン

ジングな気持ちになって行きま

した。谷さんが勧めてくれた背

景は、当時、興銀のヨット部の

コーチをやっておられて、滋賀

大生にも受験のチャンスを与え

るよう働きかけておられたから

と聞きました。そんな時、偶々

キャプテンであった私にお声が

掛ったということでしょう。採

用試験では何度か大阪や東京ま

で足を運びましたが、四回生に

なった春先には事実上の内定を

貰いました。他の同期七名も、

比較的早い時期に就職が内定し

ましたので、その後は夏のイン

カレ目指して余念なく全力投球

が出来ました。

# 星出公認会計士事務所

所長 星出 潔 (大13回)

〒112-0002 東京都文京区小石川 2 丁目 3 番28-805号

TEL 03-3815-3451 (代表) FAX 03-3815-3637

E-mail : khoside@cameo.plala.or.jp

## 夜討ち朝駆け

—— 入行されてどんな仕事から。  
**小梶** 最初は本店債券部に配属されました。金融債の商品開発や販売を行う部門です。同じ部に新人五名が配属されたのですが、東大の野球部のキャプテンとか京大のボート部出身者とか、結構体力派が集まりました。こういう時は、学生時代、全国レベルで競って来た自信が、精



神的にも強い支えになりましたね。勿論、ヨットで鍛えた体力も十分活かすことが出来たのですが。(笑)

—— どんな体力ですか。

**小梶** 当時、銀行が発行する金融債の販売については、制度的な支えが徐々になくなって、自力の販売体制づくりが課題となっていました。丁度その頃、炭鉱の閉鎖や、鉄鋼業界の不振で大量の退職者があちこちに出

てまして、そこで我々の出番となるわけです。退職金プロジェクトと称して、泊まりがけで金融債をあちこちに売り込みに行

く、まさに夜討ち朝駆けです。こんな仕事は、上の連中は殆ど経験ないわけで、むしろ学生時代に新人勧誘やクラブバイトでノウハウを蓄積した我々に一日の長がありました。これがまさに体力の勝負でした。〃ニクソン・ショック〃と呼ばれたドルと金の交換停止の大統領演説もその宿泊先のTVニュースで見たことを今でも鮮明に覚えています。

—— ショックが営業に影響したんですか。

**小梶** 直接にはなかったんですが、あとあと振り返ると、あれが世界経済の大きな転機だったと思うと、何か感慨深いものがありますね。やがてあの演説が、スミソニアン合意を経て、変動相場制移行、さらに石油ショックへと展開して行ったわけですから。

その後の仕事としては、同僚は皆、地方支店でのんびりやることになったんですが、私だけが本店に残されて融資営業をさせられました。新人に毛の生えたような者が、こういうパーフ

ォーマンスを出すか人事部のテストパターンだったようです。いきなり大企業を担当させられてね。業種は窯業とか食品が主体でした。もともと興銀の融資構造は重厚長大でしたが、その頃から徐々にサービス産業や第三次産業にシフトしつつある状況でした。当時の想い出と言えば、やはり石油ショックです

ね。丸の内本店ビル(現在のみずほコーポレート銀行本店)を建て替えている最中に遭遇しました。関西の方ではちり紙がないと大騒ぎでしたが、我々は鉄骨がない、セメントがないですよ。建設所管の管理部門あたりから矢のようなプレッシャーがかかって来て、無理にお願いして何とか急場を凌いだことを覚えています。

—— 支店に赴任されたのは。

**小梶** 丁度本店に五年いて、五〇年春に名古屋支店に転勤となりました。自分にとって、この支店時代は極めて想い出深いですね。本店時代、ヨット部に入ってきた女性と付き合い始め、ゴルフインしたのもこの時でしたし、ゴルフを本格的に始めたのもこの頃でした。

楽しい生活が五年経過しようとする頃、上司から「君は今後

どんな仕事がやりたいんだ。約東は出来んが希望だけは聴いておくよ」と言うので、「証券関係をやりたい」と答えたんですよ。最初債券部に入って、身近な印象がありましたし、証券部というのは銀行の中でもやや特殊で、存在感がありましたので、やや生意気なことを言ったかなとも思ったのですが。

ところが実際の発令は日本道路公団出向ということでした(笑)。「話が違う」と言いましたら、「そうじゃない。道路公団というのは証券部の出先機関でもあるんだから。起債の重要

先だから頑張ってくれ。期間は二年らしい。」と。別の先輩から「興銀で出向出来ない者は駄目なんだよ。変な人は出せないだろう。出向して初めて一人前だよ」などと適当なことを言われて、自分なりに納得したものでした。行ってみたら、それなりに大事にしてくれましてね。

—— お立場は。

**小梶** 経理部の課長代理のようなポストで、当初は予算や起債関係の仕事をやっていました。が、次第に新しい仕事が増えてきました。というのも五〇年代半ばは、政府の財政事情が悪くなる一方でしたから、公団や

事業団は、民間に資金調達をシフトせざるを得ない事情にありました。そこで何百億単位の協調融資のスキームを作ったり、金融団との交渉の窓口になったりで、結構忙しい日々を送らせて貰いました。

—— 借り入れは順調に行きましたか。

**小梶** 行きましたね。当時は高金利時代でしたが、金融機関も優良公団への貸付となれば、それなりの魅力があったと思いますよ。特に信託銀行や長信銀からは感謝されたと思いますね。

## 夢の世界旅行

**小梶** 当時、道路公団への出向で同僚から羨まれたことは、卒業旅行に世界一周が出来るということでした。任期終盤となつて、大蔵省出身の理事の鞆持ちで、世界銀行への訪問や道路事情視察を名目に、自分にとって初めての海外出張が実現しました。

—— どこを回られたんですか。

**小梶** てっきり世界一周が出来ると楽しみにしていたのですが、一緒に行った道路公団プロパーの人達だけは米国から大西洋を跨ぎ、私と理事だけは米国からまた太平洋を跨ぎ日本に帰

って来ました。(笑)

その後、出向から銀行本店に戻って、債券本部や都銀・生保を相手とする金融法人営業を三年ほどやった後、今度は本格的に海外に行くチャンスが訪れました。

通の米国人が日常どんな家庭生活を送っているのか、どんな文化を持っているのかは、同じ屋根の下で暮らしてみても初めて判ることですから。今でも地方が舞台となった米国映画を見るのは楽しみの一つです。

六十年三月に、突然人事部から呼び出しがあつて、「アメリカに行つて貰いたい」と。「アメリカのどここの拠点ですか?」

#### ロンドン勤務へ

小梶 そろそろ研修の期限が近づいた頃、人事部から国際電話が架かってきてロンドンの証券現法へ行つてくれとの内示を受けました。時折しもニューヨークでは、有名なブラザ合意がなされていた一九八五年九月のことですが、一旦帰国し、一週間後にロンドン赴任という慌ただしいスケジュールで、家族は後から呼び寄せました。

当時ロンドンの証券現法は、設立後一〇年経つて、これから大きく飛躍しようとする時期にありました。赴任当時は総勢八〇名、内日本人は十五名でした。毎週のように新顔のローカルスタッフが入社して来ましたが、私はユーロ債のトレーディング部門の管掌役員でしたので、最初の頃は、トレーダ達と話す早口の仲間言葉を理解するのに随分苦労しましたし、取締役会でもあのキングス・イング

リッシュの強いアクセントには戸惑いましたね。結局ロンドンには五年近く勤務することになるのですが、この間はまさに日本ではバブルの絶頂期でした。企業は株価の高騰を背景にエクイティファイナンスに殺到、日本からの来客は引つ切り無し。その数が余りに多いので、本来

学校を卒業するタイミングで、本店の証券営業部に戻りました。そこでは証券会社との付き合いが頻繁になりましたので、ゴルフは年間八〇回ほどプレーしてましたが、腕の方は中々上達しませんでしたね。その後は名古屋の副支店長と京都支店長をやりました。

#### 京都支店長時代

小梶 京都支店の管轄は京都と滋賀でしたから、まさに私の地元です。息子が近くに帰つて来たということで両親も随分喜んでくれましたし、地元取引先も親しみを持って接してくれました。仕事の方は、世の中全体にバブル崩壊の影響がジワジワと来ていましたから、支店の経営は、不良債権への対応と優良中堅企業への食い込みの併せ業で二年間の任期を全うしました。海外という意味では、この時期、中国や東南アジアへの関心が高まっていましたから、取引先の社長さん達を案内してミッションを組んだり、融資先の起債で海外に行くことは間々ありました。京都の支店長は、皆に羨ましがられるんですが、先斗町や祇園の雰囲気や辛うじて嗅げたのは、私の時代まで。そ

の後、いよいよ金融危機が深刻になって行きますから、支店長社宅もやがては売却の憂き目にあつたと聞いています。

#### 日本相互証券へ

——その後、日本相互証券の方に移られたと聞きましたが。

小梶 九七年六月に移りました。興銀・富士・一勧の三行統合が発表される二年前ですね。日本相互証券というのは、証券という名前はついていますが、実際は株の取引所の代表が東証であるように、謂わば公社債の取引所にあたる所です。もともとは、債券の流通市場を整備する目的で、第一次オイルショックの頃、百社近い証券会社の共同出資で設立された会社ですが、昭和六十年代初めに銀行も参入して、まさにオールジャパンの会社となっていました。興銀から私が二代目の役員として派遣されたことになりましたが、ここでの実質九年間は最高に面白かったですね。主に企画担当でしたから、結構思い通り色々なことをさせて貰いましたし、国債の流通制度や決済制度の改革でも、関係官庁や各種委員会での折衝・提言を通じて、それ

ます。

## 日本国債清算機関の社長就任

——その延長で日本国債清算機関の社長に就任されたのですか。

小梶 そうですね。そもそもこの会社は、今世紀に入って証券決済制度の改革論議が高まり、欧米並の決済機関が不可欠だということになって、我々市場関係者が、監督官庁や証券業協会と一緒に議論しながら作った会社で、国債の主要プレーヤーである証券、銀行、短資会社等々が均等に出資しました。私が行った時は未だ設立後間もない時期でしたので、システム強化や人員の補強といった面で随分時間を取られました。任期中に何とか体制整備も終え、業務も軌道に乗ったのを見届け、退任することが出来ました。何しろここでは、日々二十兆円近い決済がなされていて、もしシステムトラブルでも発生しますと、国債市場は甚大な影響を被りますから、その責任は重大でした。

特に、先のリーマンショックの時には、この会社が持つ決済保証機能が大きく寄与して、破綻の影響を最小限に食い止めて、国債市場がパニックに陥入るのを防げたことは何よりだったと

思っています。

——伺ってますと、まさに金融の歴史の中で仕事をされて来られた感じですね。

小梶 殆ど金融と市場の世界にいましたからね。私がお世話になった会社は妙なことに全部「日本」という冠がついているんです。日本興業銀行、日本道路公団、日本相互証券、そして日本国債清算機関でしょ。最後にもう一つやらせてくれるなら日本女子大の講師がいいんですが。でもこれは許されませんね。(笑)

全部が全部とは申しませんが、いずれの会社においても、公の視点で仕事が出来たのは良かったと思いますし、若い頃自分が希望した証券関係の仕事を最後まで出来たのもラッキーでした。

## Ryosui Wine(りゅうすいざう)

——趣味は。

小梶 趣味と言えるかどうかは別として、もともとアウトドア派ですから、何か身体を動かしていた方が精神的にすっきりするんですよ。年に数回、友人達と丹沢の山々に登ったり、またヨットのの方は、長らくご無沙汰していたのですが、最近自由人

になってから、葉山を拠点に海仲間とクルージングしたり、レースに出たりして活動を再開しました。何と言っても最大の楽しみは、ハーバーに戻った後、皆でワイワイやる船上宴会ですが、グループの社会貢献では、障害者の皆さんや町の子供達を体験試乗会に招待するような活動もやっています。

また最近では農業の方にも関



心が出て来まして、現在横浜市が主催する二年コースの市民大講講座に通いながら、葡萄・梨の果樹類や野菜の栽培方法とか、地域が抱える農業課題について学んでいます。将来真剣に農業経営をやろうという頼もしい若者もおりまして、彼等と色々議論出来るのも楽しみの一つです。またこうして色々体験してみると、日本の農作物がどうしてこんなに高いのか、納得

も出来るようになりました。

将来の夢は、山梨県辺りで後継者のいない葡萄園でも借りて、日本一美味しいワインを造って「Ryosui」のブランドで全国の会員の皆さんに味わってもらうことですかね(笑)。

——今の陵水会にアドバイス。

小梶 まだ幹事長となつて日が浅いですが、先日陵水二十一回の脇坂さんから、元職場の先輩で、早稲田の稲門会の幹事をやっておられる方を紹介されましたので、三人で色々と大学の同窓会について話をする機会がありました。稲門会のように四十万人もいる組織と違いますが、東京陵水の総会で二百人以上のOBが集まることには、大変驚いておられました。いずれの同窓会でも、若手の参加意欲をいかに掻き立てるかということが課題となるようです。稲門会には、ファイナンス稲門会というのがあって、謂わば分科会ですが、幅広い層の同窓生が結構活発に活動しているとのことでした。現役の人達にとっては、仕事に関係した人脈作りや参考情報、同窓会のネットワークで期待出来るようなら、インセンティブが高まるんでしょうね。

# 経営再建コンサルタント協同組合

理事長 長井和男(大22回)  
公認会計士

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-5-4 共同ビル(八重洲口)505

TEL 03-5255-3511 FAX 03-5255-3512

E-mail : nagai@sai-ken.or.jp

若手も参加し易いこうした分科会のようなものがいくつかあると、陵水会全体の活動にも興行と広がりが出てきますし、基盤もしつかりして来ると思いますね。先日ある人から、東京陵水でも若手会員の集まりが少しずつ胎動し始めているというようなことを聞きました。

もう一つは、陵水会と母校との距離がもう少し縮まればと思っています。お互いがもっと手軽に情報交換出来るようになれば、自然と関心も高まります。そういう点では、大学のリスクリサーチセンターの発案で、十二月から大学発の情報誌が毎週希望者に無料でメール配信されるサービスが予定されていますので、これには注目して行きたいと考えています。それとの関連で申し上げれば、数年前から当支部が手掛けているメーリングリストは、未だアドレスの登録率が会員の一割強に止まっています。何とかこうしたインフラを整備・充実させながら、陵水会の活動がより活発に、またより魅力的なものになって行けばと願っています。

——どうも貴重なお話ありがとうございました。

## 水戸っぽが彦根で人生修業 (お世話になった仲間・先輩諸氏のこと)

黒沢 日出男 (大11)

桜田門外の変以降、彦根の人々にとっては旧敵ともいえる水戸出身の私が初めて彦根に足を踏み入れたのは昭和三十三年三月の入学試験だった。受験生が多かったこの年は、キャンパス内の校舎に納まらず隣の中学校の教室で受験した。この時の日本史問題に「姉川の合戦が日本史に与えた影響について記せ」とあり、全く歯が立たなかったのを後々まで思い出す。

水戸商業高校から大学受験となると簿記で受験できる旧商大と旧高商系の大学に絞られた。縁あって旧彦根高商の滋賀大経済学部へ合格し、担任から校長室に報告挨拶に行くと勧められ小樽高商出身の校長と対面した。我が校から彦根は初めてだと激励された。

桜花爛漫のキャンパス内の偲聖寮西十一号に入居し、兵庫県豊岡高出身の小西兄と同室となった。寮内には二回生・三回生の先輩も残っており、水戸の田舎者にとっては関西弁の世界と行動様式はカルチャーショックであり、新鮮な驚きでもあった。

入寮後数カ月で毎年発刊の寮誌に「旧敵彦根を批判す」と云う駄文を寄稿したのは若気の至りと云える。この寮誌の広告取りに大阪出身の坂本兄と同行し、大学出入りの本屋に行き広告掲載を依頼したら簡単に断られてしまった。ところが、坂本兄の粘りは凄い！「そない云わんと……」と粘る。水戸の田舎者と関西人の違いをまざまざと知らされた思いだった。

同期の一回生で最初に親しくなったのは、岐阜県岩村高出身

の石橋兄だ。語学のクラス・ESSが一緒だった。ボート部にも入っていたが辞めてしまい学業はそっちのけで夜は絵を描いていた。商社に就職し活躍していたが結核で入院を繰り返し五十五歳で、会社に迷惑は掛けたくない云って早期退職し画業に励み、損保ジャパン賞など数々受賞し画家として認められたように嬉しい限りだ。

体力の回復を確かめるべく中川・井原両兄とオンボロ自転車三泊四日の旅は忘れられない。野村証券から富士貿易に転じた彼の結婚式に司会役の指名を受け、先代小池社長宅に同行し挨拶させて頂いたのも懐かしい。

軟式テニス部で印象に残る先輩は四回生の松原実さん、日立製作所に入社した松原さんとは水戸の実家に帰省する度にお会いした。私の三回生の夏、松原さんからテニス部先輩の今井さんと名古屋で会い書簡を手渡ししてくれと依頼された。今井さんは関谷産業に入社したが思わしくなく、日立製作所に引つ張ると云うのだった。入社数年でこんなことが出来る松原さんは凄いと感嘆した。その後今井さんは日立化成本社経理部長となった。

三井物産に入った彼がニューヨークに赴任する三年前、御子息の私立武蔵中学入学に際して保証人になったのが唯一つ恩返しと云えようか。

関ヶ原高出身の中川兄とは一回生後半から卒業まで熱中したツーリスト仲間となつてから急速に親しくなった。病氣休学後、



けなかった非礼をお詫びした。松原さん本人からのご希望で「他人には知らせないで」と云う事で「黙っていて御免なさい」と謝られてしまった。

人情厚く豪快でスポーツ万能だった松原さんの御冥福を祈ります。合掌！

E S S 在籍時の一年先輩乗富さん（下関西高）の印象も強烈だった。入学早々の五月、英文毎日主催のデイベートが甲南大学であり同行した。堂々としたスピーチは見事としか言いようがない。クリスチャンで孤高とも云える雰囲気があったが、私にはよく声を掛けてくれた。東レに就職が決まったが、「俺は優は七つしかないよ」と豪語していた。多分、英語力拔群が決め手だったのだろうと推測した。その乗富さんが四回生となり卒業前、簿記原論を落としていて「黒澤君頼む！」と懇願され彼の下宿に何度も出向き特訓し、無事卒業となった。

昭和四十九年五月私がロンドンに二泊した際、ロンドン駐在中の乗富さんの下宿に電話したら家主のおばさんが「彼は一か月前東京に帰った」と伝えられた。それから七年後、通勤の帰りに夕刊フジを見ていたら乗富

さんが、キリンシーグラム社長として一面記事になっていて驚くと同時に国際派ビジネスマンとして活躍しているなど嬉しくなった。

陵水会東京支部長をされていた高安先輩にはいろいろとお世話になった。日本オリベッテに入社当初三年間は東京陵水新聞の手伝いもし、編集責任者の木村先輩（毎日新聞政治部）には怖かったけど可愛いがってもらった。

高安先輩の奥様は彫刻家北村西望氏のご長女で、西望氏が購入したという大洗町夏見海岸の別荘へ私の愛車スカイラインで何度かご夫妻を送迎した。その返礼もあり、高安先輩から六本木でステーキを御馳走になり、チーズケーキが抜群に美味しくて評判の店を教えて頂いた。六本木交差点に近いこの店は宮内庁入江侍従長や人間国宝浜田庄司氏や朝日ビル社長山本為三郎氏御用達の店だった。

オリベッテイ社で岡山営業所長・大阪営業所長を終えて東京に戻った昭和五十三年、陵水会岡山支部で大変お世話になった先輩渡辺連平さんから、高商同期で親友の山柊慶応大学教授が結核で病の床に伏しているの

で、適当な品物を届け見舞って欲しいとの依頼があった。早速この店のチーズケーキを持って、世田谷東京農大近くの山柊邸に伺い奥様に届けた。後日、渡辺さんからの手紙で「山柊君が生涯で一番美味しいチーズケーキと感激・感謝された」と喜んで頂いた。陵水会先輩同志を繋ぐメッセンジャー役を果たせたことに満足している。

## 「意識が奇跡を起こす」

田中 和夫（大18）



夫婦そろって全く同時に二人とも生死に涉る大病を患うも、奇跡的な完全復活を遂げ、命の強さと尊さ、生き抜く力の凄さを綴った夫婦愛のエピソード、

拙著『戦友妻』（田中和夫著・下田出版（株）発行）をご紹介させていただく事をお許し下さい。

二〇〇五年の夫婦双方の大病とその劇的な克服である。私は心不全により弁膜症（機械弁）の手術をする。大手術であったが本当に大変だったのは、順調に回復していたかに思えた術後、合併症でMRSA感染症に侵され、再度困難な手術を行ったこととその後である。

しかもこの手術のため、妻は自分の卵巣腫瘍の手術を先延ばしにし、結果的に癌が全身に飛び散っている可能性を宣告される。自分のことよりお互いのことを想う相思相愛が裏目に出てしまったのである。極度の鬱も併発した妻が、強い自殺願望を持ち、愛しているなら殺してほしいと私に懇願する場面は、今も胸に突き刺さる。一時は無理心中が脳裏をかすめたのだが、もう一人の自分が俯瞰して冷静さを取り戻す。私は子供の頃や仕事の時の幾多の困難も、このような感情のコントロールによって乗り越えてきた。これは繰り返し本書で語る「一パーセントの可能性があるなら諦めるな」「意識の持ち方で好転する」

という趣旨に通じる。本書にはこうした私の経験を通じてよりよく生きるためのヒントを数多く盛り込んだつもりである。中でも特筆すべきは「このまま治療を続けなければ奥様は死にます」と担当医に言われたにも拘らず、夫婦で話し合い希望によって抗癌剤治療を止めたしまったことだ。医者にかからない独自の「自律神経免疫療法」は奏功し、ある医師に「奇跡」と言われ、別の医師には「神業」と言われるほどに妻は私ともども一年後に完全復活する。

私は子供の頃稀に見る虚弱児で、過敏性腸症候群、心的外傷後ストレス障害（PTSD）、頻繁にかかる赤痢や皮膚炎、トラコーマ等毎日なほどの病院通い、それにイジメの絶好の対象。身長一四八センチ、体重三〇キロの高校生までは「栄養要注意」の指導を受け、五〇歳までしか生きられないのではないかと云われたが、自らのスタンスでもって諸病状をと戦い続け、社会人になった頃には身長一八〇センチに。仕事で徹夜しても翌朝の始業前に早朝テニスで活を入れるほどのタフガイに変貌。さらに絵画にしても、音楽にしても望んだことには造詣を深める

労を惜しまなかった。『できるかできないか』ではなく、『望むか望まないか』が全てを可能にする」を掲げる強い信念が、こうした復活劇の大きな原動力になったのかもしれない。その「意識」が数々の奇跡を起こし、人生は意識次第でどうにでもなるということ、それを如実に痛感する。

今は夫婦ともが病前よりも増して元気になり、絵画展に出品したり、妻のピアノ伴奏復活により二人で恒例のシャンソンコンサートを再開し、また共に知的障害者施設に定期的に音楽指導の為通わせて頂いている。入所されている一人でも多くの方々に差し上げるつもりが、却ってそのパワーを戴き元気になっていくのである。夫婦が同時に闘病生活を強いられたせい

か、いろんなことを再認識するのである。病を朋友と称し、そこから「生きてゆく勇氣」「生きている素晴らしさ」を感じ取れる氣付きが出来たであろう。そのことは人の二倍も三倍も人生を深く味わえるのである。まさにピンチをチャンスに。病が教えてくれたこと、それは当り前の健康が奇跡だということ、

「意識」が変われば周りの風景も、周りの人達も全て変わって見える。現実とは変えられないが、現実の受け取り方はいくらでも変えられる。また過去と他人は変えられないが、未来と自分は自由に変えられる。だから前に進んでゆくことにワクワクするのである。底から這い上がることによって却って見えなかったものも見えてきて、今、生きている奇跡のような幸運に心を馳せ、自分自身を自分の中で最高の美術品に完成させるべく歩んで行きたいものである。私が何気なく過ごしている今日という日は、昨日亡くなった人が痛切に生きたいと願った一日である。今の積み重ねが明日へと繋がっていく。まさに「二日一生」の思いで今を大切にしたいものである。「いのち」は長さでなく深さであると思う。

「幸せ」を取って「三K」という頭文字表現をするとすれば、一つ目は「感動」のK。自然の美しさへの感動、人の言動による湧き立つような心の高揚や、一期一会のように一度会っただけなのに二度と忘れられない大勢の人達との出会い感動もある。二つ目はありがとうに凝縮される「感謝」のK。人生の師、人生の友、それに良き思い

出はさも得難い財産である。一粒の米や一杯の水、そして病ですら「ありがとう」と感謝できただろうか。さらに健康に生活できるならこれ以上のものはない。先祖、両親に感謝すべきである。三つ目は「心」のK。幸せは全て自分の心の中にあり、決して人と比較するものではない。周りの人を幸せにしてこそ、本当の幸せを味わえる。幸せは形ではなく、幸せな気分にくれる心根である。物は手に入れたが心を培う時間を失ったのでは後悔先に立たずである。聞いて幸せ、しゃべって幸せもあるが、心で感じる幸せに勝るものはない。物の豊かさよりも心の豊かさこそが幸せと思えてならないのである。「事実の小説よりも奇なり」で本当にあった体験談はそれを示唆しているのかもしれない。

拙著は紀伊国屋、ジュンク堂、丸善で取り扱われているが、今は注文購入となるので、ご関心がございましたら直接田中宛（電話・ファックスとも〇四四一八六一一五六二二）にご連絡頂ければ、送料無料で送りさせていただきます。定価一五〇〇円。

## ゴルフ談義

第七十九回東京陵水ゴルフ会  
平成二十一年十二月九日（水）  
金乃台カントリークラブ

二十四歳の年の差もなんのその！

曇天であつたが、風も無く穏やかな天候に恵まれ、三十九名十組で熱戦が繰り広げられた。三名の初参加者があり、中でも大20回の宮武選手は、最年長の中辻選手と二十四歳の年下と幅広い年齢の和やかなコンペであつた。

最年長の本21回中辻選手が水平獲得、二番目年長者の本21回井口選手は第七十四回大会に続き第三位入賞、大2回柴田選手二十位入賞、大4回北川選手は当回賞九位に入賞するなどベテラン勢の健在振りが目立った。

優勝は若手の大18回小梶選手がベストグロスの七十八、ハンディ十一、ネット六十七と四アンダーで、ベスグロ優勝に輝いた。準優勝は初参加の大9回田川選手が前評判通りの実力を発揮された。五位までがアンダーパーというレベルの高い大会であつた。

### 成績

|       |       |         |        |
|-------|-------|---------|--------|
| 優勝    | 小梶    | 清司(大18) | 67(11) |
| 2位    | 田川    | 行雄(大9)  | 69(14) |
| 3位    | 井口    | 博民(本21) | 70(27) |
| 4位    | 北澤勝太郎 | (短9)    | 70(12) |
| 5位    | 宮武    | 修(大20)  | 70(24) |
| 7位    | 金井    | 肇(大14)  | 73(7)  |
| 9位    | 北川    | 享(大4)   | 75(22) |
| 10位   | 宇治原嘉政 | (大7)    | 76(20) |
| 15位   | 野村    | 英機(本21) | 77(20) |
| 20位   | 柴田    | 茂夫(大2)  | 79(13) |
| 25位   | 山本    | 孝之(大9)  | 81(11) |
| 30位   | 西坂    | 徹雄(大9)  | 82(20) |
| BB賞   | 小口    | 晃(大14)  | 93(8)  |
| ベスグロ  | 小梶    | (大18)   | 78     |
| 大波賞   | 小口    | (大14)   | 9打差    |
| 水平賞   | 中辻    | (本21)   |        |
| ニアピン  | 宮武    | (大20)   | 滋野2    |
| (大18) | ・長嶺   | (大15)   | ・富田    |
| (大15) | ・松浦   | (大8)    |        |



**第八十回東京陵水ゴルフ会**  
平成二十二年四月八日(木)  
金乃台カントリークラブ

エージシュウトも夢じゃない!

今や陵水会東京支部を支える大きな柱となっている「東京陵水ゴルフ会」は、一九九〇年三月十三日赤羽CCで、十二名の

同好の士が集い開催されて以来、二十年を迎えることが出来ました。当時の川本支部長初め先輩諸氏のご尽力の賜物と感謝いたします。

連日の雨にも関わらず、この日だけは特に東京陵水ゴルフ会二十周年を祝うかの如く、快晴の絶好のコンディションの下、九組三十五名が熱戦を繰り広げた。



八十四歳でクロス九十で回った第一回から出場の井口選手が、ネット六十七とブッチギリで優勝した。準優勝には六十五歳の志井選手、三位には七十一歳の三井選手と各年代からベスト三が出た。

**成績**

|                      |                                        |        |
|----------------------|----------------------------------------|--------|
| 優勝                   | 井口 博民(本21)                             | 67(23) |
| 2位                   | 志井 重雄(大16)                             | 70(21) |
| 3位                   | 三井 照次(大10)                             | 75(8)  |
| 4位                   | 日高 信次(短12)                             | 76(12) |
| 5位                   | 名口 幸夫(大14)                             | 76(5)  |
| 7位                   | 石垣 康(大10)                              | 77(15) |
| 10位                  | 加藤 博善(大14)                             | 79(21) |
| 15位                  | 松浦 幸作(大8)                              | 81(15) |
| 20位                  | 柴田 茂夫(大2)                              | 79(13) |
| 25位                  | 畠山 義生(大10)                             | 86(8)  |
| 30位                  | 守谷 貞夫(大12)                             | 89(12) |
| BB賞                  | 小口 晃(大14)                              | 95(8)  |
| 特別賞                  | 8位 白井和宣(大14)                           |        |
| 回、18位                | 北村 徹(大14回)                             |        |
| 28位                  | 西坂徹雄(大9回)                              |        |
| 二十回連続出場表彰者           |                                        |        |
| 宇治原嘉政、北村 徹、井口博民、山本 保 |                                        |        |
| ベスグロ                 | 名口(大14)                                | 81     |
| 大波賞                  | 白井(大14)                                | 10打差   |
| 水平賞                  | 井口(本21)                                |        |
| ニアピン                 | 井口(本21)・柴田(大2)・田川(大9)・名口(大14)・富田2(大15) |        |

**第八十一回東京陵水ゴルフ会**  
平成二十二年六月二十三日(水)  
金乃台カントリークラブ

年長組大活躍!

風も無く穏やかな天候に恵まれ、三十七名十組で熱戦が繰り広げられた。

十回ごとのハンデキャップ改定の明暗が分かれ、年長者の活躍が目立った。

優勝は、二ヶ月後に八十歳を迎える本24回の西澤選手、第三位に喜寿の大5回中西選手、第四位に来年傘寿の岡田選手とベテラン勢の活躍が目立った。第二位には大17回の蔵田選手が入り、何とか若手の面目を保った。ベストクロスは久しぶり参加の北澤選手。

**成績**

|    |            |        |
|----|------------|--------|
| 優勝 | 西澤 正(本24)  | 68(31) |
| 2位 | 蔵田 昭憲(大17) | 68(25) |
| 3位 | 中西 三(大5)   | 71(32) |
| 4位 | 岡田 巖(大2)   | 72(27) |



|      |                                     |        |
|------|-------------------------------------|--------|
| 5位   | 平居 俊雄(大12)                          | 72(21) |
| 7位   | 金井 肇(大14)                           | 73(11) |
| 10位  | 西坂 徹雄(大7)                           | 74(24) |
| 15位  | 川本 茂(大1)                            | 77(40) |
| 20位  | 田村 寿夫(大12)                          | 78(24) |
| 25位  | 小椋 清司(大18)                          | 80(9)  |
| 30位  | 佐藤 秀孝(大10)                          | 82(18) |
| BB賞  | 吉原悟一(大9)                            | 90(27) |
| ベスグロ | 北澤(短5)                              | 83     |
| 大波賞  | 滋野17(大14)                           | 8打差    |
| 水平賞  | 佐藤(大10)                             |        |
| ニアピン | 岡田(大2)・北澤(短5)・三井・田中・佐藤(大10)・小椋(大18) |        |

**第八十二回東京陵水ゴルフ会**  
平成二十二年九月七日(火)  
金乃台カントリークラブ

酷暑の中の一時の清涼

兎に角暑い暑い酷暑続きの今年の夏の毎日、この日だけは暑さも比較的和らいだ中で、初参加一名を含む、三十九名十組で熱戦が繰り広げられた。(因みに翌日は大雨であった)

短9回目高選手が、ネット六十四、七アンダーとブッチギリ、ベストクロス八十の好スコアで優勝した。準優勝はベテラン大4回の北川選手、三位に大14回の白井選手がいずれも三アンダーで入賞した。



株式会社 **金乃台カントリークラブ**

代表取締役 **戸 塚 謙 二**

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町3432

TEL 029-872-0182 FAX 029-872-3182

『今年も皆様のご来場をお待ちしております』

【新規参加を希望の方】

氏名・住所・☎番号・生年月日・卒業回・所属ゼミ・クラブ・ハンディキャップを下記メールアドレスにご連絡下さい。Xの次にアンダーバーがあります。山本保 yatax\_888@icnet.ne.jp

山本 保 (大15) 記



東京陵水会囲碁会便り

去る、六月二十六日東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービス厚生年金基金会館において開催しました。日頃研鑽を積まれた十八名の棋士が参集され盛大に戦いを繰りひろげました。戦いは、A、Bの二組に分かれハندی戦で行われ、六時間余りの熱く、また和気あいあいの内に終了しました。ただちに戦績発表および表彰が行われ、その後懇親会に移り遅くまで戦況やまた日頃の過ごし方もろもろの話題に花を咲かせ楽しく終了しました。

戦績は次の通り。

A組…優勝 神崎 栄次

二位 北村平太郎 六段(大3)

三位 鈴木 克治 七・五段(大5)

四位 山本 保 (大15) 記

五位 山本 保 (大15) 記

六位 山本 保 (大15) 記

|      |                            |    |    |
|------|----------------------------|----|----|
| 優勝   | 日高 信次(短9)                  | 64 | 16 |
| 2位   | 北川 亨(大4)                   | 68 | 30 |
| 3位   | 白井 和宣(大14)                 | 68 | 23 |
| 4位   | 中西 三(大5)                   | 70 | 29 |
| 5位   | 岡田 巖(大2)                   | 71 | 27 |
| 7位   | 三井 照次(大10)                 | 72 | 10 |
| 10位  | 古山捷二郎(大14)                 | 74 | 21 |
| 15位  | 田川 行雄(大9)                  | 77 | 15 |
| 20位  | 山本 保(大15)                  | 78 | 23 |
| 25位  | 小倉 好博(大18)                 | 79 | 18 |
| 30位  | 蔵田 昭憲(大17)                 | 81 | 15 |
| 35位  | 守谷 貞夫(大12)                 | 86 | 23 |
| B賞   | 宇治原嘉政(大7)                  | 89 | 24 |
| ベスグロ | 日高(短9)                     | 80 |    |
| 大波賞  | 富田(大14)                    | 11 | 打差 |
| 水平賞  | 山口(本22)                    |    |    |
| ニアピン | 北川(大4)・三井・山本(大15)・富田2(大15) |    |    |

二・五段(大3)

二位 大谷毅丈夫一

五位(大6)

三位 刀祢館信雄 五段(大8)

次回は二十二年十二月の開催を予定しています。

三井照次(大10) 記

陵水散歩会から

平成二十二年の実施記録です。

○一月二十九日(金)

コース…荻窪駅集合→太田黒公園→荻外荘跡など文士居宅跡→井伏鱒二の散歩道→井草八幡宮→善福寺公園→同池→吉祥寺駅。参加十二名。

○二月二十六日(金)

コース…京王線聖蹟桜ヶ丘駅集合→多摩川沿道→京王百草園



(梅園が満開)→七生丘陵散歩道→明星大学→多摩動物園駅→高幡不動尊→高幡不動駅。参加十一名。

○三月三十日(火)

コース…田園都市線池尻大橋駅集合→目黒川沿いに満開の桜見物→目黒区役所(元千代田生命本社)→正覚寺→祐天寺→林試の森→目黒不動→大鳥神社→雅叙園→大円寺→目黒駅。参加九名。

○五月十九日(水)

コース…新宿駅西口集合→東京都庁(都庁三十二階の職員食堂で昼食)→新宿中央公園→神田川沿道→面影橋→金乗院目白不動→南蔵院→新江戸川公園(雨の中池端の景色に満足)→椿山荘→有楽町線江戸川橋駅。参加九名。

○七月三十一日(水)

コース…猛暑の夏、出発時で三十五度。京成本線江戸川駅集合→小岩菖蒲園→江戸川沿道→矢切りの渡し→金町浄水所→葛西神社→水元公園(やっと幾分涼が取れた)→金町駅。参加八名。

○十一月二十四日(水)

コース…四か月ぶりの開催。中野駅北口→中野ブロードウェイ→新井薬師→哲学堂→功運寺など寺町→林美美子旧宅(学芸員

解説あり)→佐伯祐三アトリエ(閉館後一〇分でも開けてくれた)→立教大学→池袋駅。参加十一名。

※毎回集合場所を午後一時に出発。最終到着場所まで打ち上げ懇親会を実施。実費は自弁。

林 史欣(大8) 記

編集室 所感

年一回発行の「東京支部年報」の性格を帯びてきた本紙、いつの間にか「陵水会年報」を頭においた競争感覚で編集に当たっていました。やはりコストを考えると、思い切ったことはできません。それでも未曾有の二十六ページという内容になりました。佐和学長の講演の理解のためには近著「グリーン資本主義」を参考にされたい。小梶幹事長のお話、生き生きとして話し相手が巻き込まれ、少し長い掲載になりました。黒沢氏と田中氏の随想は、自己と他人との関係、自己と自分内他人の関係ということ、お二人の含蓄ある言葉で表現されています。年間の記録なので同好会報告も分量が増えました。

(H)

# 平成二十二年度有田会 京都で開催

近藤 達也 (大13)

去る十月二日・三日「ホテル・ルビノ京都堀川」を会場に

して、平成二十二年度有田会が開催されました。今回は四十九回目にあたり参加者は二十六名でした。例年、会の始まりに会員が講師を勤める講演会がありますが、今回は十四回卒で金沢星稜大学名誉教授の森山誠一氏による、「大逆事件百年と森近運平」と題する講演が行われました(氏の研究成果は昨年岩波書店発行の雑誌「世界」でも詳しく取り上げられています。)その後は懇親会で夜の更けるまで約半世紀にわたる交友を深めました。

今年が恩師有田正三先生の七回忌に当たりますので、記念の文集「有田会だより」を発行しました。また二日目には揃って大谷本廟にある墓にお参りをし、来年の再開を約して解散いたしました。次回五十回目は平成二十三年十一月二十六日・二十七日に京都で開催する事に決定しました。記念すべき区切りの有田会ですので多くの方の参加をお願いする次第であります。

なおこれまで六回卒の杵名敏郎氏が代表幹事でしたが、健康上の理由で退任、同じく六回卒の市村仁氏に交代する事になりました。



## 東京五陵会・恒例旅行

細井 恭一 (大5)

東京五陵会恒例のハイキングは十月二十八日、二十九日の一泊二泊。奥鬼怒温泉郷を訪ねることとした。宿泊は温泉郷の中心となる「ホテル加仁湯」である。参加者は例年より若干少ない八名(青島、天田、市木、龍口、中川、久木、細井、間宮)。

生憎の雨の中、JR新宿発十時三十五分、特急スペーシア鬼怒川三号に乗り込む。便利な特急が出来たもので、JRの栗橋駅から東武日光線に乗り入れ、乗り換えることなく鬼怒川温泉に行くことが出来るのである。

車窓からは雨空を眺めながら、久しぶりの再会に会話が弾み、持参の弁当を頂いているうちに十二時三十八分奥鬼怒川温泉に到着した。三十分ほど待って路線バスに乗り約一時間半のバス旅行。途中中川治温泉、川治ダムを通過して険しい山道に入る。右手は急峻な山が迫り、左手は谷川で川沿いに幾つもの急なカーブを曲がりながら、ある時は坂を登り山の裏側へ出たり、あるときはダムの横を通過したりして、「まだかまだか」と同じような光景が続く山道をバスは走る。

そうこうする内に川俣温泉を経て奥鬼怒川温泉郷の玄関女夫淵温泉に着く。路線バスの終着地である。ここからはホテル差し廻しのマイクロバスに乗換え、ごつごつの山道を二十分も走っただろうかホテルに着く。ホテルはこのような深い山の中とは思えないほど立派な三階建ての建物で驚かされる。外観だけ

けでなく内部の設備も整って居る。更に部屋からの山の眺めが素晴らしい。岩肌を中心に紅葉真っ盛りの山の景色が迫ってくるさまは、まさに一幅の名画に見えるような趣がある。時間に余裕があるので小雨の中をさきに歩いて、お隣の日光沢温泉まで散策した。

加仁湯の温泉は乳白濁色で硫黄臭がする。内湯の他にホテル自慢の野趣溢れるいくつかの露天風呂があり、紅葉の深山を眺めながらの入浴は贅沢そのものである。混浴もある。夕食は山の畑の物や山菜や川魚を上手に使ったとあって、品数も多くとても美味しかった。流石に海の物は一切使っていないのには驚きであった。

翌朝部屋の窓をあけて見ると、白い雲はあるものの青空がのぞいている。本日は晴天だ。部屋の窓からの眺めは素晴らしい、しばらくは立ち去りがたい趣であった。ホテル前で記念撮影をし、九時半過ぎ出発した。今日は打って変って晴天となったので、女夫淵まで谷川沿いの遊歩道を歩く事にした。道の両側の山々は今を盛りと素晴らしい秋の色彩を見せてくれる。そのお陰でこのハイキングをどれ

だけ楽しくさせてくれた事か。途中コザ池の滝で休憩。女性三人組と一緒に立った。この当たりは標高千二百から千三百メートルの高地であるからか、空気が澄んでいて気持ちがいい。約二時間の道程だったが、本当に来て良かったと一同御満悦の体だった。女夫淵では大盛りのキノコそばを頂き、十二時四十五分発のバスで鬼怒川温泉駅に。十五時三分発の特急スペーシア鬼怒川6号に乗り帰途に着く。車中ではビールを楽しみながら雑談に花を咲かせ来年の再会を約し解散とした。



## 若手のOB会活動

肥田 茂之（大54回）

本年十一月より年次幹事を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。現在、在京若手の勝手連的な活動として「若手会」を企画しており、今年の夏から代表幹事を務めさせていただきます。

この若手会は現在四十二回生以下の方々にご参加を頂き、年に三回の懇親会を企画しております。一回の人数は十五名程度と決して大きくはありませんが、平成十九年に第一回を六名で静かに開催して以来、実に四年間活動を続けております。また本年は、発足以来の会の目的でありました「回生を気にしない人間関係の構築」を明文化し、徐々にですが、会としての形を整えております。とは言え、女性の皆様に如何にご参加頂くか、如何に低予算で会を成立させるか（何分財布の紐は硬く）など、問題山積の状態ではございます。

そんな中、特に意識の高い参加者より、大学への貢献活動をしたい、母校への恩返しをしたいと言う意見も出始め、現在その想いを如何に形にしていけるかに知恵を絞っております。実際、

一部有志が彦根に行き、学生との懇親会に参加してまいりました。

若手会に参加した皆様のうち、かなりの方が「こんな会がある事自体知らなかった」「滋賀大学という一点でこんなにもつながりができるとは思わなかった」という言葉を頂きます。支部総会もまた、我々と同世代については言える話であり、私としては、是非会を通してできた人脈が、若手の多数参加する支部総会に繋げていきたいと思っています。

## 東京支部秋季役員幹事会の開催

昨年十一月二十七日（土）十一時三十分から、上野精養軒において東京支部秋季役員幹事会が開催された。小槻清司幹事長司会により、西坂徹雄支部長挨拶、続いて今秋新しく役員幹事に就いた、脇坂守（大21）、中岡浩三（大23）、田中恒男（大24）、岩崎博之（大27）、藤井登（大31）、西野忠宏（大33）、肥田茂之（大54）、溝畑直也（大54）の諸氏を紹介、各挨拶。西坂支部長から母校及び陵水会本部の近況が概要以下の説明があった。経済学部学科別学生数二三四九名内女子八一九名。

四回生の数が学生数の三十二パーセント、留年が多いため。教員数一〇六名。二十二年度入試倍率四・五パーセント。就職力育成支援に向けての取り組み。SIFE大会の活躍。陵水奨学育英制度の創設。就職説明会の開催。陵水協力講義「リーダーシップ論」開催。等々。

小槻幹事長から東京支部平成



二十二年度の活動経過報告があった。会計監査（四月二十一日）、役員幹事会（五月八日）、支部総会（七月三日）、三役会（九月二十四日）などの開催。「東京陵水」の通年編集作業、広告募集活動。次年度総会準備活動。会員メールアドレスの登録推進と整備。大学、陵水会本部との連携活動。同好会（ゴルフ会、

囲碁会、散歩会）活動等々。

また今後の主要活動スケジュールとして、二十三年一月「東京陵水」二十三年号の発行、同三月三役・総会担当幹事会、総会案内状発送、三役会（決算関連）、同四月会計監査、同五月春季役員幹事会、同七月九日支部総会。

「東京陵水」二十三年一月号・通算九十八号の編集作業の現況を林史欣（大8）編集委員が説明。

次に二十三年度総会当番幹事の野村勝良（大23）氏から現在までの総会準備状況の説明があった（本紙一ページ参照）。会議終了後午餐会が開かれ十四時に終了した。

## 「東京陵水」紙へ広告掲載を。

本紙を情報交換の場として、また業務紹介、営業推進の面から、広告紙面の積極的なご利用をご検討下さい。本年度の実績では、広告掲載料を、中面一段二万円、裏面一段三万円（二段の場合は四万円）とさせて頂いています。広告は支部財政の強化に繋がるとともに、紙面の充実にも大きく寄与いたします。その面からご理解とご支援を期待しています。

ご宴会・ご婚礼・出張料理  
カフェランランドーレ・グリルフクシマ



精養軒

〒110-8715 東京都台東区上野公園 4番58号  
TEL 03-3821-2181(代) FAX 03-3822-1330  
<http://www.seiyoken.co.jp> 年末年始以外年中無休



# 彦根コンプライドメンシャル

—滋大陵水新聞会

## 「氷河期の就職活動」

・氷河期とは？

「氷河期の就職活動」という

題の寄稿依頼を受けたが、我々（現四回生）にとつては初めての就職活動であるため、今年が厳しいのか例年通りなのかという比較を行うことは難しい。世間では就職氷河期だというのが、就職活動というものは自己の長所・短所を見極め、その向き不向きを熟考し自分の進路を決めていくことである。ここで一番問題になることは不景気によって求人数が減っていることではなく、世間の情報の波に襲われ上記のような思考作業を怠ってしまうことである。多くの学生が情報の波にのまれ、必要以上の焦燥感や絶望を与えられるところこそが就職氷河期を迎える最大の理由なのだ。

・現在の就活

現在の就職活動はどのように行われているのかと、よく質問を受けることがある。就職活動というものが昔と今ではかなり

りの差異があるようなので、ここで現代の就職活動がどのようなものなのかをご報告しようと思う。

我々世代の就職活動が始まるのは三回生の夏休みであることが多い。その時期になると企業のインターンシップが始まる。このインターンシップの目的は、表向きには「学生に実際に働くことの実感を持ってもらうため」というものだ。しかし実際には、企業側にとつて「インターンシップを行うことでイメージアップを狙う」といったことが目的であることが多く、

「1 day インターンシップ」など意味があるのか疑わしいものも多く存在する。一方でマスコミや一部のメーカーのように、採用に直結するようなインターンシップも存在し、「入社までの登竜門」と位置付けている企業もある。インターンシップに参加した学生のみを採用する、気に入った学生は面接回数を減らすといったことが行われている場合もある。いずれにし

ても学生のまとまった時間を確保することのできる三回生の夏休みからインターンシップが始まるのだが、就職活動の長期化につながっていることは間違いない。

三回生の秋になると授業が始まり、徐々に企業の説明会も始まる。大抵の学生はゼミナール活動が本格化し、クラブや委員会活動の中心を担うようになる。この時期は就職活動をしなればいけないという焦りが出てくる。

就職活動が本格化するの、年が明けた一月下旬からである。この頃になると、大学に企業数社のリクルーターと呼ばれる採用担当の方がやってくる。企業の倫理協定により四月一日までは面接など実質的な選考活動は禁止されており、面接という目的ではなく、企業の説明を行うといった名目でリクルーターとの接触が行われる。しかし、実際にはリクルーターによる学生の選抜が行われている。リクルーターによって選ばれた学生は、四月一日の面接開始と同時に内定を得ることもある。

多くの企業では二月～四月にかけて会社説明会が行われる。この時期になると、学生は一日

に二～三社の説明会を回る。それと同時にエントリーシート（ES）の作成も行わなければならない。このESの作成作業が就職活動において最も重労働であることは間違いないであろう。その質問項目は「志望理由」や「大学時代に頑張ったこと」といったオーソドックスなものから、「タイムマシンが発明されたら行きたい時代」といった企業側の意図を把握しにくいものまである。説明会回りとES作成で多くの学生は寝不足の日々が続く。

そして四月一日を迎えると一斉に筆記試験・面接試験が行われる。最近では筆記試験を自宅のパソコンから行う企業も増えている。ここで行われる筆記試験とは、SPIと呼ばれる論理構成能力や計算速度を測る試験が中心になっている。この試験に合格すれば面接へ進み内定が出るということになる。

今年は各社ともに内定を遅く出す傾向があり、学生を慎重に選んでいるといった印象がある。また、大企業になればなるほど四、五月中に内定を出し終えてしまうのでこの時期は学生にとって正念場と言えるだろう。

大まかではあるが現在の就職活動のあらましをお伝えした。内定が決まらず就職活動に悩んでいる学生も多いが、やはり自分の可能性を狭めるような内定なら取らない方がいい。グローバル化が進み、さまざまなチャレンジが求められる時代であるが、それを楽しむ度量を持てば就職活動もその後の人生もうまくいくだろう。

## 滋賀大学リスク研究センターからのお知らせ

滋賀大学リスク研究センターでは、この度「リスクフラッシュ」と言うメールマガジンを創刊し、陵水会員の皆様に毎週一回、定期配信するサービス（無料）を開始しました。

内容は、教員の研究内容（論文や著書など）の紹介や、景気の解説、リスク研究センターの活動状況等でございますが、会員の皆様と大学との双方の対話にもお役に立つものと考えております。

配信ご希望の方は、リスク研究センターの下記メールアドレスまで、「リスクフラッシュ希望」と明記の上、直接お申込みください。

risk@biwako.shiga-u.ac.jp

（東京支部事務局）

年会費・併せて寄付金をお振り込みいただきありがとうございます

平成二十二年年度年会費納入者

(十一月二十七日現在)

初田 修(本12)、船見祐次(本15)、  
小林超夫(本17)、山廣 新 平尾  
喬 若林定男(本18)、石田三郎  
小林満男 高木克幸(本19)、葛上  
宗一郎 田波隆興 辻 暢夫 山成  
軒六(本20)、井口博民 犬塚昌一  
梅沢誠質 河添治男 土田 茂 豊  
田弘毅 鳥居和也 樋口廣太郎 中  
辻喜蔵(本21)、高山義雄 丹羽鑛  
治 橋本 侃 林 隆治 山口昭夫  
(本22)、西尾 實 前川彌之祐 松  
本 義 吉田光雄(本23)、大竹徳  
行 岡田 浩 加納淳司 楠田迪彦  
高木早苗 西沢 正 保正 保 矢  
田佳三 若園正夫(本24)、奥村忠  
雄 川瀬孝太郎 加藤福志(東)、  
落合忠一(別)、外江龍太郎(工2)、  
井上祐一 川本 茂 小池英夫 田  
中孝太郎 渡辺貞二 中村 清 山  
本 裕(大1)、我孫子孝 乾 哲  
彦 岡田 敏 亀井潤吉 郷 治雄  
柴田茂夫 新宮 毅 刀禰館治男

23年度  
支部年会費の納入をお願いします！  
(年 3,000 円)

\*支部年会費(年3,000円)は本部年会費(同額)とは別に納入をお願いします。  
\*支部活動(総会開催や会報発行等)の主な財源は、会員の皆様からの年会費で成り立っております。  
\*円滑で活発な支部活動は母校ならびに校友会の発展にとって強い支えとなります。  
\*同封の払込取扱票(振込手数料無料)により必ず納入下さいませようお願いします。

宮崎 正 水引芳雄 渡辺陽彦(大2)、神崎栄次 小八木俊雄 清水善和 中川弥次 畑 宗明 増田茂樹 矢野 昭 吉村 恒 用田政一(大3)、青山松太郎 今井常清 粕淵健三 北川 享 佐々次郎 田岡譲一 竹内鋭二 谷 文夫 辻 昇平 西岡隆夫 樋上不二子 寺田又三 箸方海三 広内士郎 松岡正曜安江郁夫 山中英一(大4)、青島弘 天田志郎 飯島 勲 井上明郎岡田和義 神谷 亨 田中修二 龍口秀夫 中西三一 中川郁三 樋上泰功 細井恭一 間宮昌蔵 三井正勝(大5)、青木 滋 今宿隆弘 白井 靖 大久保義雄 大谷毅丈夫岡田 亨 河合正紀 川村和男 草生知治 児島正次 小林仁実 斎藤隆康 中村博一 橋本長夫 林謙治郎 久木義雄 三宅義男(大6)、磯部一郎 伊藤芳朗 市川浩久 宇治原嘉政 宇野 進 浦谷政夫 佐野 鈴木重成 富永義孝 西野宏 東野和弘 山本芳三(大7)、天木清次 池田弘孝 小塩正長 尾本政二 大島明美 瀧川雅一 刀祢館信雄 並川 淳 西村 信 浜崎守三 林 史欣 松浦幸作 松岡健雄 安田一雄(大8)、小野 浩 日下部百也 坂田忠彦 田川行雄中川和己 中島勝司 永田博己 西坂徹雄 西田広彦 平瀬武明 藤江忠正 藤本裕一郎 森本忠徳 山本孝之 宮田 昭 吉原悟一(大9)、井上善隆 石垣 康 白井 健 小塩 守 小西捷治 佐藤秀孝 田中俊男 坪田清六 中川寿一 中沢龍彦 中村寿男 畠山義生 服部全孝細谷 隆 三井照次 山田 進 山本啓司(大10)、川北直行 川合久嗣 小林貞夫 関 恵文 野一色公平 長谷村秀夫 松浦紀久雄 吉岡一三(大11)、稲邑明也 奥村啓一 小原捷治 守谷貞夫 田村寿夫 角田孝司 平居俊雄 堀内 和 堀川幸夫 宮野幸雄 山口和俊(大12)、朝比奈冬男 内川晃廣 小谷兼夫 小林三郎 近藤達也 中村奎吾 星出 潔 吉田久典 若山 忠(大13)、天木國夫 阿部 誠 白井和宣 小口 晃 葛山 薫 加藤博善北村 徹 古山捷二郎 清水 颯高橋勝彦 田中泰弘 土井健一郎中村 弘 野村英機 羽瀨展世 古川浩司 丸居 裕 吉井幹雄(大14)、龜山祥夫 海老 洋 大澤義隆 奥村勇雄 木下英男 黒田悦司 黒田克彦 鈴木 勝 柘野茂樹 鶴見芳令 富田博司 中沢武昭 長嶺英則 二宮 靖 藤本幸延 細江諤夫 前田哲頭 馬島惟安 松田克巳三谷邦男 山本 保 吉田勇夫(大15)、尾関一平 木津勝治 木戸彪 小林隆彦 佐藤充宏 嶋多 優進 従道 浜口栄治 渡辺雅利(大16)、越後和斉 池谷吉人 岡本和之 川崎憲夫 蔵田昭憲 栗林 昭 柴原良昭 滋野輝彦 柘 治之 豊田徳司 中根昌孝 西尾郁夫 山本節夫(大17)、市岡隆治 岡田憲治岡本文夫 喜田峰幸 小倉好博 影山哲也 栗原喜代次 小梶清司 杉野好有 田中和夫 千葉 茂 徳山秀雄 中村嘉秀 村瀬尚文 松本剛(大18)、井上博行 伊藤博邦江頭晋一郎 岡 廣司 門平孝二郎小山久照 芝田隆行 竹森二郎 田辺 徹 田原敏雄 寺井与利雄 土井利明 戸田保延 中村達夫 西澤弘行 西本正義 浜 筆治 宮川誠 山崎竹夫 和田博之(大19)、上田 求 植田兼司 大八木勉 河原正喜 北本正和 蔵 彰 田中二郎 角田健一 浜野信裕 福原 隆平 井善三 松山 仁 宮武 修 持田晴夫(大20)、石川公一 射場茂喜 上田文男 植野克美 藤野義男細井富雄 細河為久馬 増田洋逸米山 修 山口勝三 山下修司 吉田富美男 脇坂 守(大21)、池辺敏郎 川分啓史 北野敏彦 小林忠志 小柳津正男 孝内範生 島崎博 長井和男 長尾成基 西田真介能島伸夫 早野幸雄 山代真佐行山脇一泰(大22)、稲波信一 品川悦夫 玉置辰司 中村勝己 堀内祐 堀江恒一 若林 寛 関谷道昭大矢武史 野村勝良 船ヶ山博史(大23)、味田耕二 河江泰平 川崎重喜 上ヶ市俊之 斎藤裕士 仙田修蔵 田中恒夫 徳山 均 平井幸夫 湧川勝己(大24)、岡本幸博 田村弘昭 安井喜重(大25)、近森彦義 重田 博(大26)、足立浩次岩崎博之 川寄信二 木戸博文 福井誠一 溝口信吾(大27)、岡野茂樹 馬場敬夫 服部修(大28)、浅見 徹 緒方俊輔 大下雅司 酒井嘉登 鈴木教義 中野達也 藤田雅明 牧野 武 吉本準一(大29)、多根 徹 武田吉史 西尾治作 藤原洋一 吉田繁喜 和田昌信(大30)、福田徳実 藤井 登(大31)、小林智子 酒井康就 竜野寿男 田邨弘樹 中井光治 東 徹 吉田聡(大32)、今田 淳 清塚 徳西野忠宏 西村 毅(大33)、岡武俊雄(大34)、清水範之(大35)、金森裕樹(大36)、久野康成 川村憲司(大37)、大原孝明 岸野正史北川昌樹 柴田敬三 松澤 進(大38)、立木賢一 山本真嗣(大40)、畑瀬英樹 塩谷昌史 (大41)、上田 修 山本雅由(大42)、湯浅直樹(大44)、北尾聡子(大45)、山崎優(大48)、高田大樹(大49)、平大輔(大51)、松江大輔(大53)、溝畑直也 肥田茂之(大54)、国時真美(大55)、北村太一 藤野親弘(大57)、栗田雄太郎 田中佑磨 浜田英嗣 尾藤弘喜 藤原 悠 柳瀬友歌(大58) 佐藤喜代子 清水俊彦北沢勝太郎 日高信次 刈谷忠彦(短)、島 康介(院) 寄付金提供者(卒年次略) 高木早苗(三千円) 川本 茂(十万一万円) 西坂徹雄(二千元) 川北直行(二千元) 若山 忠(七千元) 加藤博善(七千元) 竹森二郎(二千元) 植田兼司(三千元) 山下修司(七千元) 岩崎博之(二千元) 大19 回有志(一万一千四九四円) ●平成二十一年度年会費納入者 (平成二十一年十二月三日、二十二年三月末) 平尾 喬(本18)、小笠原滋 小林満男 三木健蔵(本19)、田中孝太郎(大1)、我孫子孝 井上 弘(大2)、矢野 昭(大3)、寺田又三 山中英一(大4)、三井正勝(大5)、児島正次(大6)、小森清美(大8)、寺田 稔(大11)、石田昭郎(大14)、海老 洋(大15)、嶋多 優(大16)、池谷吉人(大17)、坂東明彦(大18)、西田眞介 池辺敏郎 小林忠志(大22)、足立浩次 岩崎博之(大27)、中野達也(大29)、吉田繁喜(大30)、岸田直明(大35)、立木賢一(大40)、山崎優(大48)、松江大輔(大53)、沼田 満(短) ●寄付金提供者(卒年次略) 池谷吉人 竹森二郎 田中恒夫 岩崎博之 中野達也

エレベーター等、輸送機械の営業、設計、製造、据付  
保守サービス、モダンゼーションに関する全業務



# 守谷エレベーター

ISO9001 認証取得

## 守谷輸送機工業株式会社

代表取締役社長 守谷 貞夫(大12回)  
田村 寿夫(大12回)

本社・第一工場 〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-14-9 TEL(045)785-3111 FAX(045)780-1881  
営業本部 〒220-0004 横浜市西区北幸2-9-40 銀洋ビル4階 TEL(045)322-3111 FAX(045)322-9486  
東京支店 〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-6-1 協栄ビル7F TEL(03)5542-2700 FAX(03)3297-7400  
大阪支店 福岡支店 宇都宮工場 名古屋出張所 札幌出張所



駐車場の総合コンサルティング

## 日本駐車場開発株式会社

(東証一部上場 証券コード2353)

東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸ノ内ビルディング

〒100-6510 電話 03-3218-1900

取締役副社長 川村 憲司(大37回)

東京・築地市場近くの本格串あげとワインのお店

## 串あげ 花村

〒104-0045 東京都中央区築地2-14-1 新井ビル1F 電話 03-3545-8765

オーナー 川村憲司(大37回)

発行所  
〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-14-9  
守谷輸送機工業(株)  
陵水会東京支部 支部長 西坂徹雄  
電話 045(785) 3716  
印刷所  
〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-3  
船舶印刷(株)  
電話 03(3831) 4181

林 史欣(大8回)  
〒164-0014 中野区南台二一五-一〇  
(TEL・FAXとも)  
〇三-三三八一-四四三一  
※編集室のメールアドレスは  
hysckys@nifty.com  
(次号分/切日十月末日)

「会報」原稿・情報ご送付先

陵水会東京支部

ホームページアドレス

<http://www2.ocn.ne.jp/~ryousuit/>